

男女共同参画に
関する
市民アンケート調査
報告書

令和4年3月
山陽小野田市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	
2 調査項目	
3 調査の方法及び回収結果	
4 調査結果の見方	
II 回答者の属性	3
III 調査結果	
1 男女平等意識について	
(1) 各分野における男女の地位の平等感	6
ア 家庭生活の中で	8
イ 就職の機会や職場の中で	9
ウ 学校教育の中で	10
エ 地域活動の中で	11
オ 政治経済活動の中で	12
カ 法律や制度の面で	13
キ 社会通念・慣習・しきたりなどで	14
ク 社会全体として	15
(2) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について	18
2 仕事と家庭生活等の両立について	
(1) 「仕事」「家庭生活(家事・子育て・介護等)」、「個人の生活(学習・趣味・付き合い等)」、「自治会や地区等の地域活動」の優先度	21
(2) 地域活動への参加	23
(3) 家庭における役割分担	24
(4) 新型コロナウイルス感染拡大による労働状況の変化	25
(5) 仕事と仕事以外の生活の両立についての不安や悩み	26
(6) 育児休暇等制度の利用	27
(7) 管理職への昇格希望	30
3 女性の就労・活躍について	
(1) 女性が職業をもつことについて	32
(2) 女性の就職、就労継続に必要なこと	34
(3) 男性の参画に必要なこと	35

4	男女間における暴力について	
(1)	配偶者等からの暴力被害の有無・相談先	37
(2)	セクシュアル・ハラスメントの有無	40
(3)	配偶者等からの暴力、セクシュアル・ハラスメント防止に必要なこと	42
5	性の多様性について	
(1)	LGBT 等の性的少数者に対する理解の促進や支援に必要なこと	43
6	男女共同参画社会に関する行政への要望について	
(1)	男女共同参画社会の達成度	44
(2)	男女共同参画社会のために山陽小野田市が推進すべきこと	45
(3)	自由意見	46

I 調査の概要

1 調査の目的

男女共同参画社会の実現を目指し、施策の一層の充実を図るため、市民の意識と現況を把握し、「男女共同参画プラン」推進の基礎データとし、施策推進の参考資料とするものです。

2 調査項目

- ・男女平等意識について
- ・仕事と家庭生活等の両立について
- ・女性の就労・活躍について
- ・男女間における暴力について
- ・性の多様性について
- ・男女共同参画社会に関する行政への要望について

3 調査の方法及び回収結果

(ア) 調査対象者

市内にお住まいの20歳以上の中から無作為に抽出した1,000人

(イ) 調査方法

郵送により調査票と回答票を配布

回答方法は「郵送回答」とインターネット上のフォームに入力する「web回答」の2種類

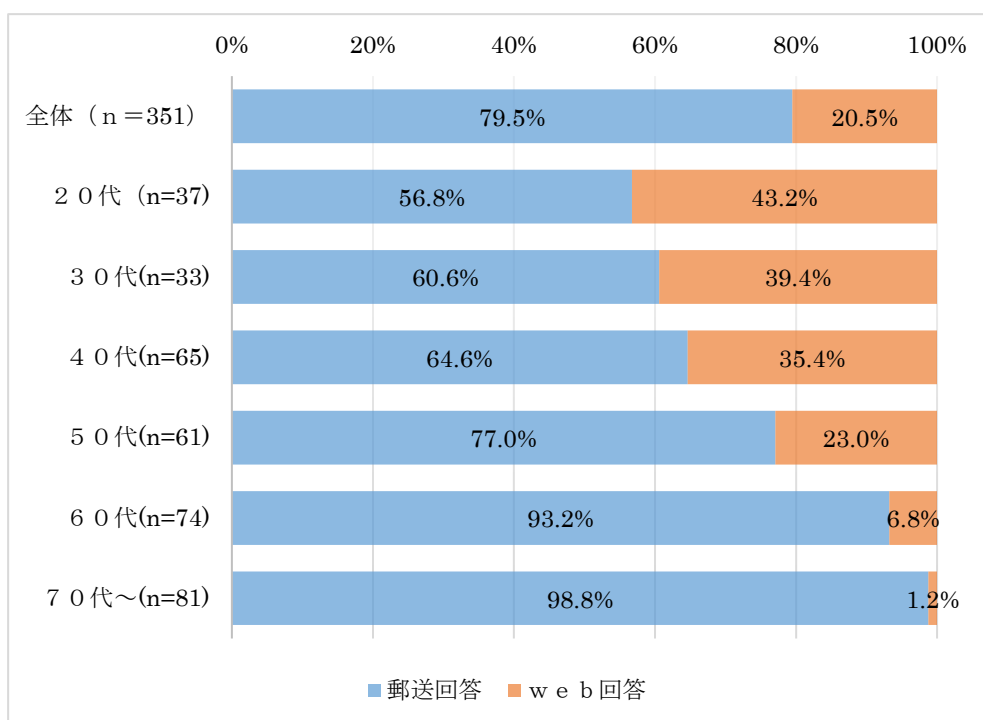
(ウ) 調査期間

令和3年12月1日～令和3年12月24日

(エ) 回収率

35.1% (1000人中351人)

	郵送回答		web回答		計	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
20代	21	56.8%	16	43.2%	37	10.5%
30代	20	60.6%	13	39.4%	33	9.4%
40代	42	64.6%	23	35.4%	65	18.5%
50代	47	77.0%	14	23.0%	61	17.4%
60代	69	93.2%	5	6.8%	74	21.1%
70代～	80	98.8%	1	1.2%	81	23.1%
計	279	79.5%	72	20.5%	351	100.0%



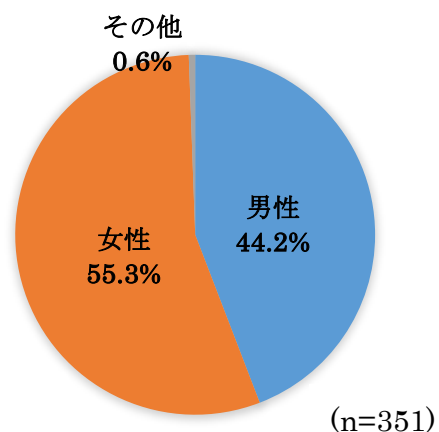
4 調査結果の見方

- (1) 本文及び図中に示した調査結果の百分比 (%) の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100%とならない場合がある。
- (2) 選択肢の中から回答可能数を超えている場合は、無回答として集計した。
- (3) 今回調査から性別の選択肢に「その他」を用意したが、回答者が2人と少なく、性別による集計や分析の際にはその回答について掲載を行っていない。

II 回答者の属性

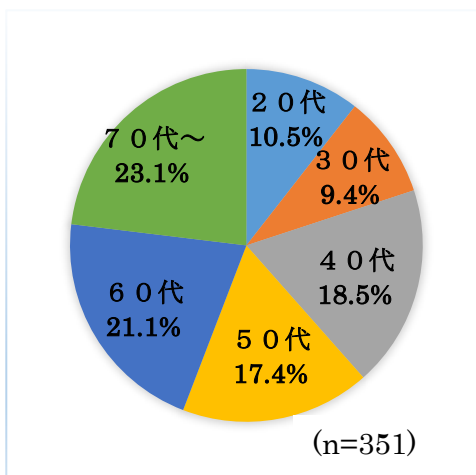
1 性別

項目	人数	%
男性	155	44.2%
女性	194	55.3%
その他	2	0.6%
計	351	100.0%



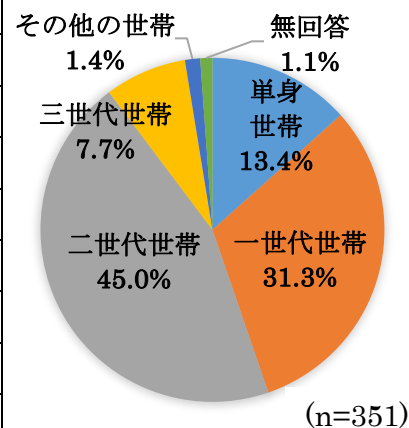
2 年齢

項目	男性		女性		全体	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
20代	15	9.7%	22	11.3%	37	10.5%
30代	14	9.0%	19	9.8%	33	9.4%
40代	28	18.1%	36	18.6%	65	18.5%
50代	25	16.1%	36	18.6%	61	17.4%
60代	31	20.0%	43	22.2%	74	21.1%
70代～	42	27.1%	38	19.6%	81	23.1%
計	155	100.0%	194	100.0%	351	100.0%



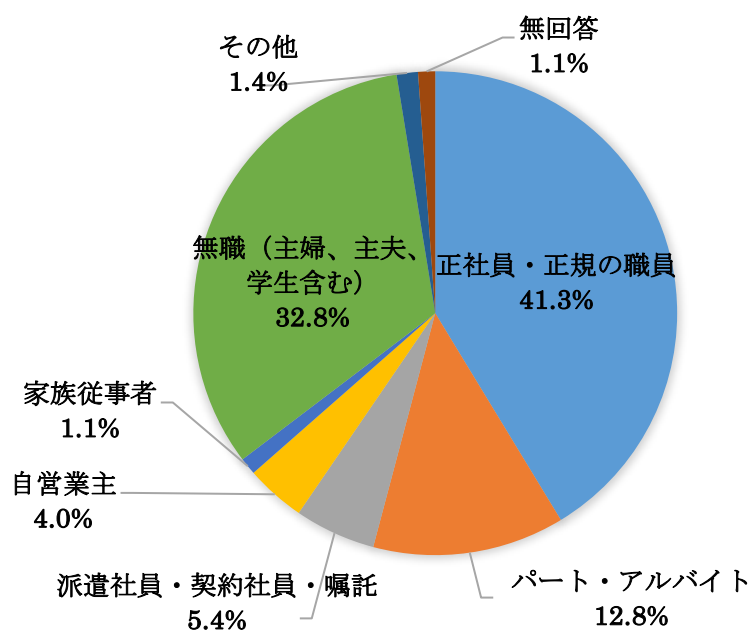
3 世帯構成

項目	男性		女性		全体	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
単身世帯	28	18.1%	19	9.8%	47	13.4%
一世代世帯	48	31.0%	61	31.4%	110	31.3%
二世代世帯	65	41.9%	92	47.4%	158	45.0%
三世代世帯	11	7.1%	16	8.2%	27	7.7%
その他の世帯	3	1.9%	2	1.0%	5	1.4%
無回答	0	0.0%	4	2.1%	4	1.1%
計	155	100.0%	194	100.0%	351	100.0%



4 就業形態

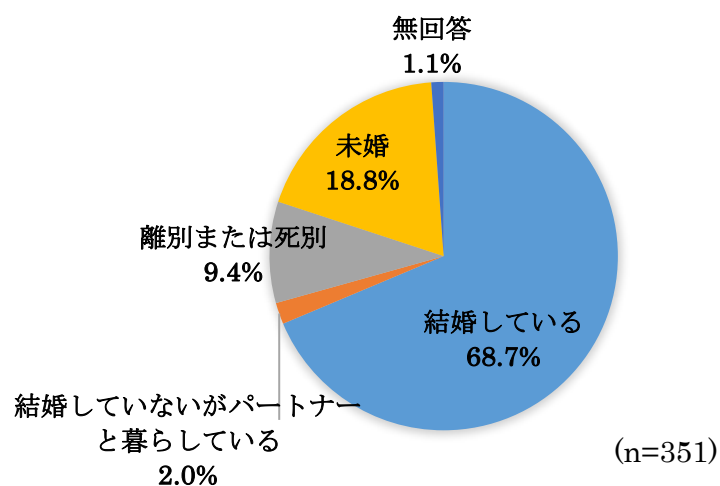
項目	男性		女性		全体	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
正社員・正規の職員	82	52.9%	62	32.0%	145	41.3%
パート・アルバイト	4	2.6%	41	21.1%	45	12.8%
派遣社員・契約社員・嘱託	5	3.2%	14	7.2%	19	5.4%
自営業主	9	5.8%	5	2.6%	14	4.0%
家族従事者	1	0.6%	3	1.5%	4	1.1%
無職（主婦、主夫、学生含む）	50	32.3%	64	33.0%	115	32.8%
その他	4	2.6%	1	0.5%	5	1.4%
無回答		0.0%	4	2.1%	4	1.1%
計	155	100.0%	194	100.0%	351	100.0%



(n=351)

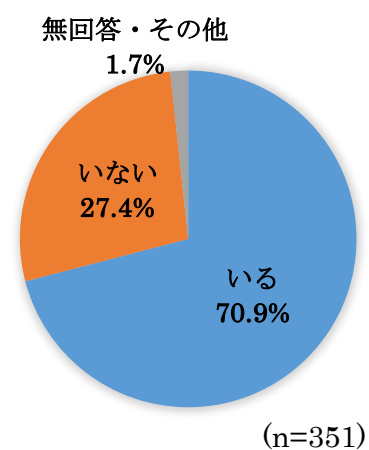
5 未・既婚

項目	男性		女性		全体	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
結婚している	102	65.8%	138	71.1%	241	68.7%
結婚していないがパートナーと暮らしている	4	2.6%	3	1.5%	7	2.0%
離別または死別	13	8.4%	19	9.8%	33	9.4%
未婚	33	21.3%	33	17.0%	66	18.8%
無回答	3	1.9%	1	0.5%	4	1.1%
計	155	100.0%	194	100.0%	351	100.0%



6 子どもの有無

項目	男性		女性		全体	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
いる	103	66.5%	145	74.7%	249	70.9%
いない	49	31.6%	46	23.7%	96	27.4%
無回答・その他	3	1.9%	3	1.5%	6	1.7%
計	155	100.0%	194	100.0%	351	100.0%

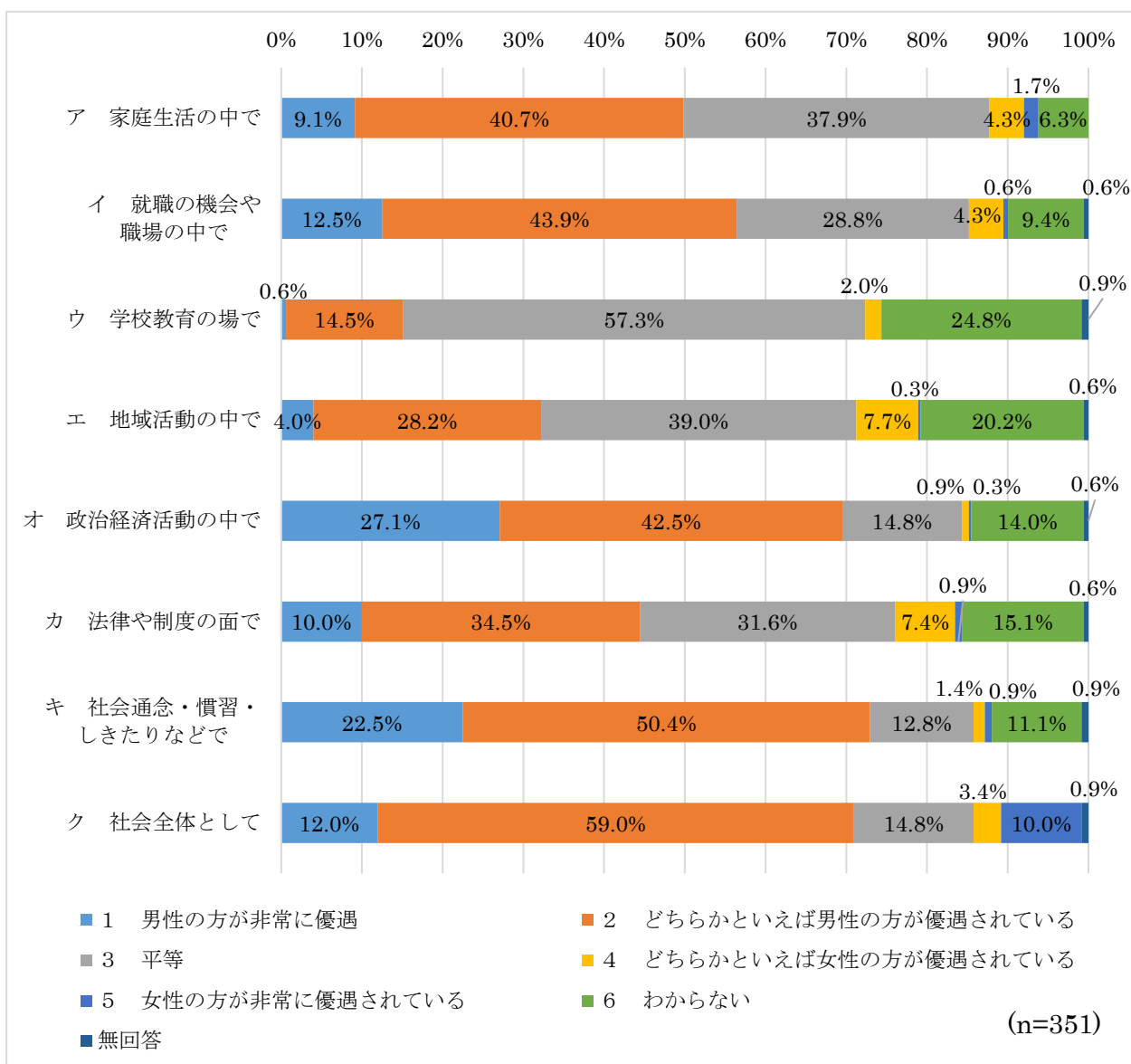


Ⅲ 調査結果

1 男女平等意識について

(1) 各分野における男女の地位の平等感

問1 あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを「ア」から「ク」の分野ごとに1つずつお答えください。



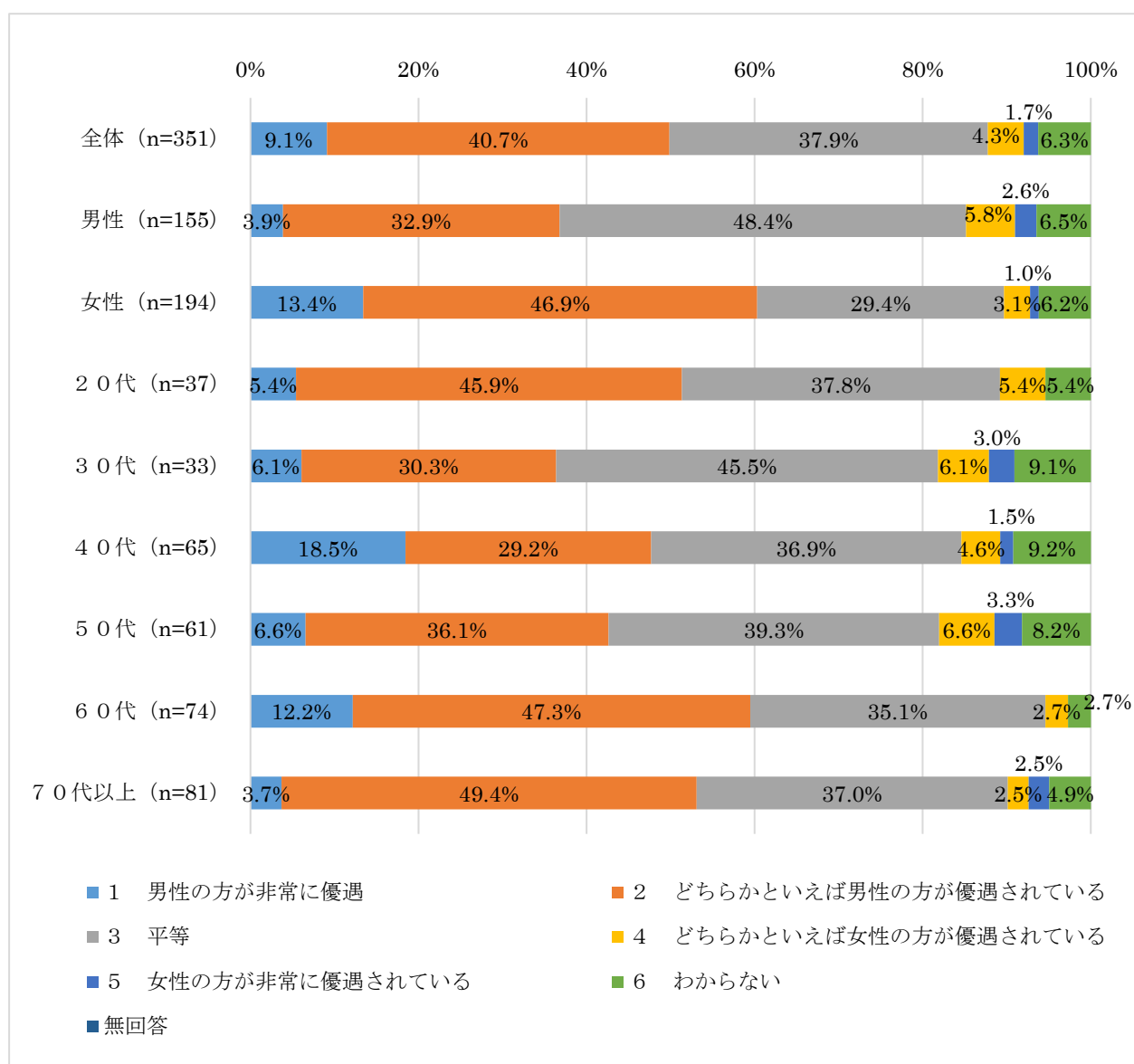
男女の地位の平等感について、それぞれの分野での「3 平等」と答えた人の割合は、「ウ 学校教育の場で」が57.3%と最も高く、次いで「エ 地域活動の中で」39.0%、「ア 家庭生活の中で」37.9%、「カ 法律や制度の面で」31.6%の順となっている。「ク 社会全体として」「3 平等」と答えた人の割合は、14.8%であった。

『男性優遇』（「1 男性の方が非常に優遇されている」及び「2 どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答）の割合は、「オ 政治経済活

動の中で」「キ 社会通念・慣習・しきたりなどで」及び「ク 社会全体として」では、7割前後と高くなっており、「イ 就職の機会や職場の中で」、「ア 家庭生活の中で」が約5割となっている。「3 平等」の回答が『男性優遇』の回答を上回っているのは、「ウ 学校教育の場」と「エ 地域活動の中で」のみであり、その他の分野は『男性優遇』の回答の方が高い。

『女性優遇』（「「4 どちらかといえば女性の方が優遇されている」及び「5 女性の方が非常に優遇されている」を合わせた回答）の割合は「ク 社会全体として」13.4%が最も高く、各分野では10%未満である。

ア 家庭生活の中での男女の地位の平等感

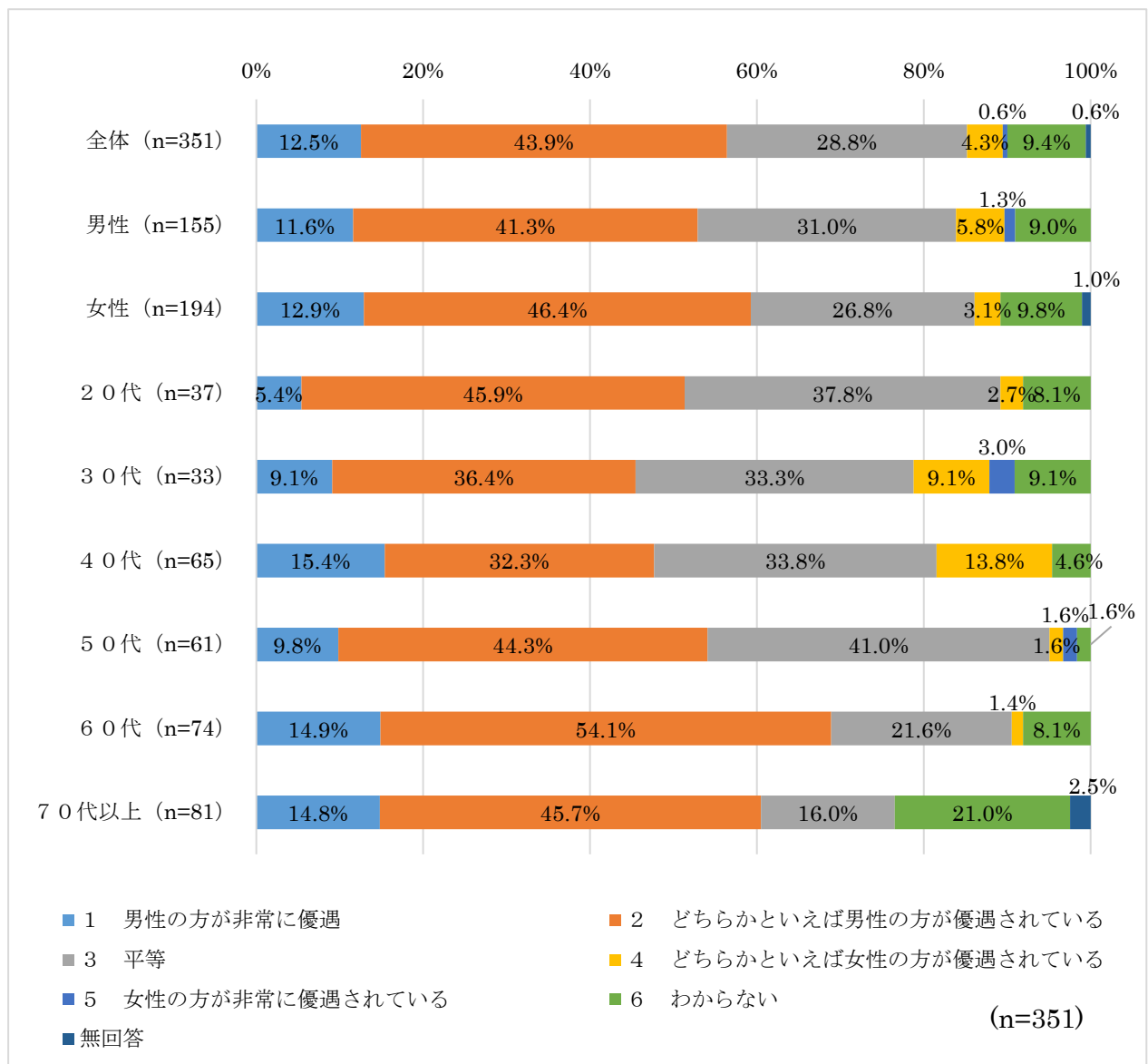


家庭生活の中での男女の地位の平等感について、『男性優遇』の割合が全体では49.8%で「3 平等」の37.9%を上回っている。

男女別で見ると、『男性優遇』の割合は、男性が36.8%であるのに対し、女性は60.3%と高く、「3 平等」は男性が48.4%であるのに対し、女性は29.4%で、男女で平等感について大きな差がある。

また、『女性優遇』は、全体で6.0%と非常に低く、依然として、家庭生活の中では男性が優遇されていると感じている人が多い。

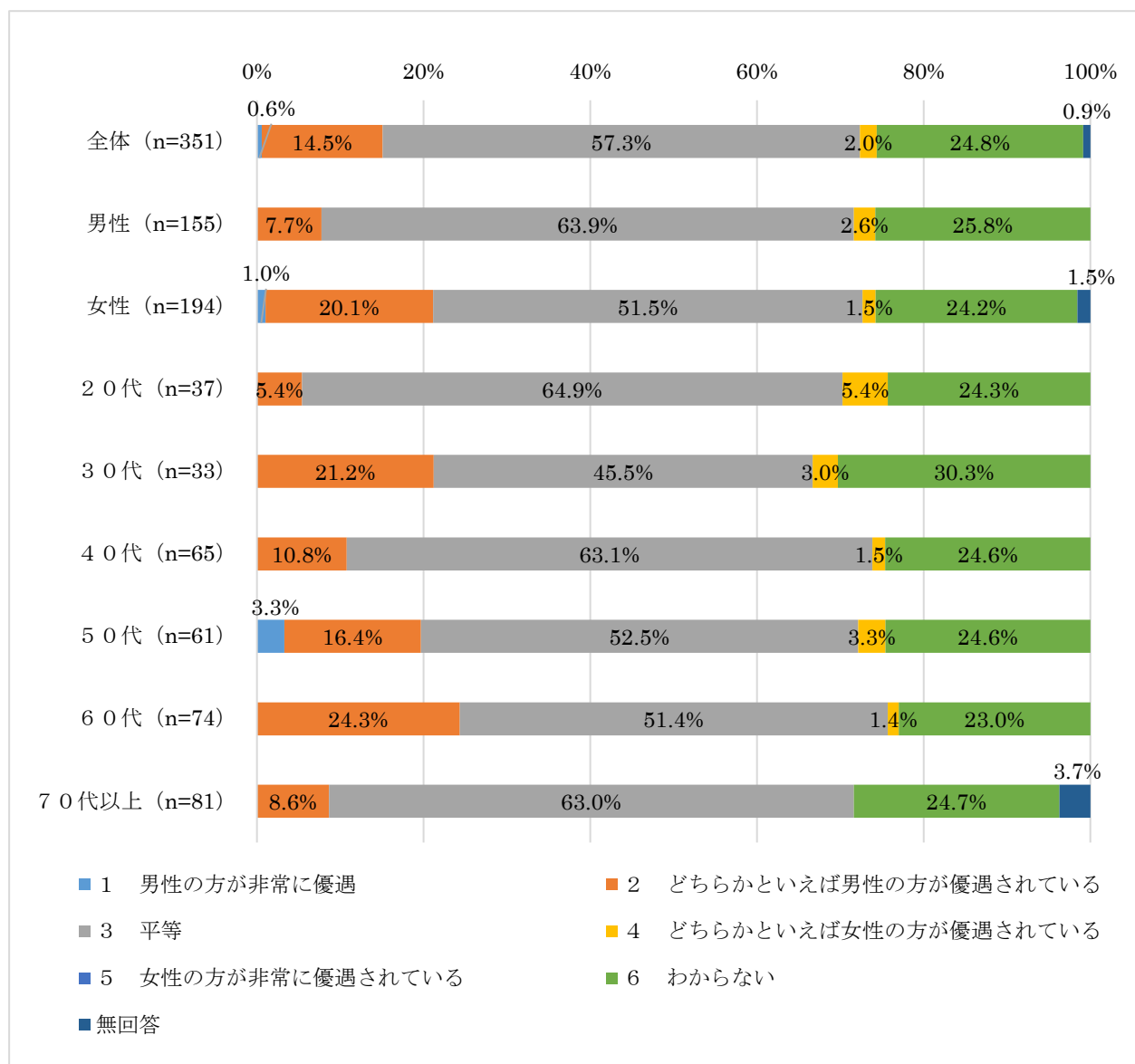
イ 就職の機会や職場の中での男女の地位の平等感



就職の機会や職場の中での男女の地位の平等感について、『男性優遇』の割合が全体では 56.4%（男性 52.9%、女性 59.3%）で、「3 平等」と回答した割合の全体 28.8%（男性 31.0%、女性 26.8%）を上回っている。

また、『女性優遇』の割合は全体 4.9%（男性 7.1%、女性 3.1%）と非常に低く、就職の機会や職場の中では、男性が優遇されていると感じている人が多い。

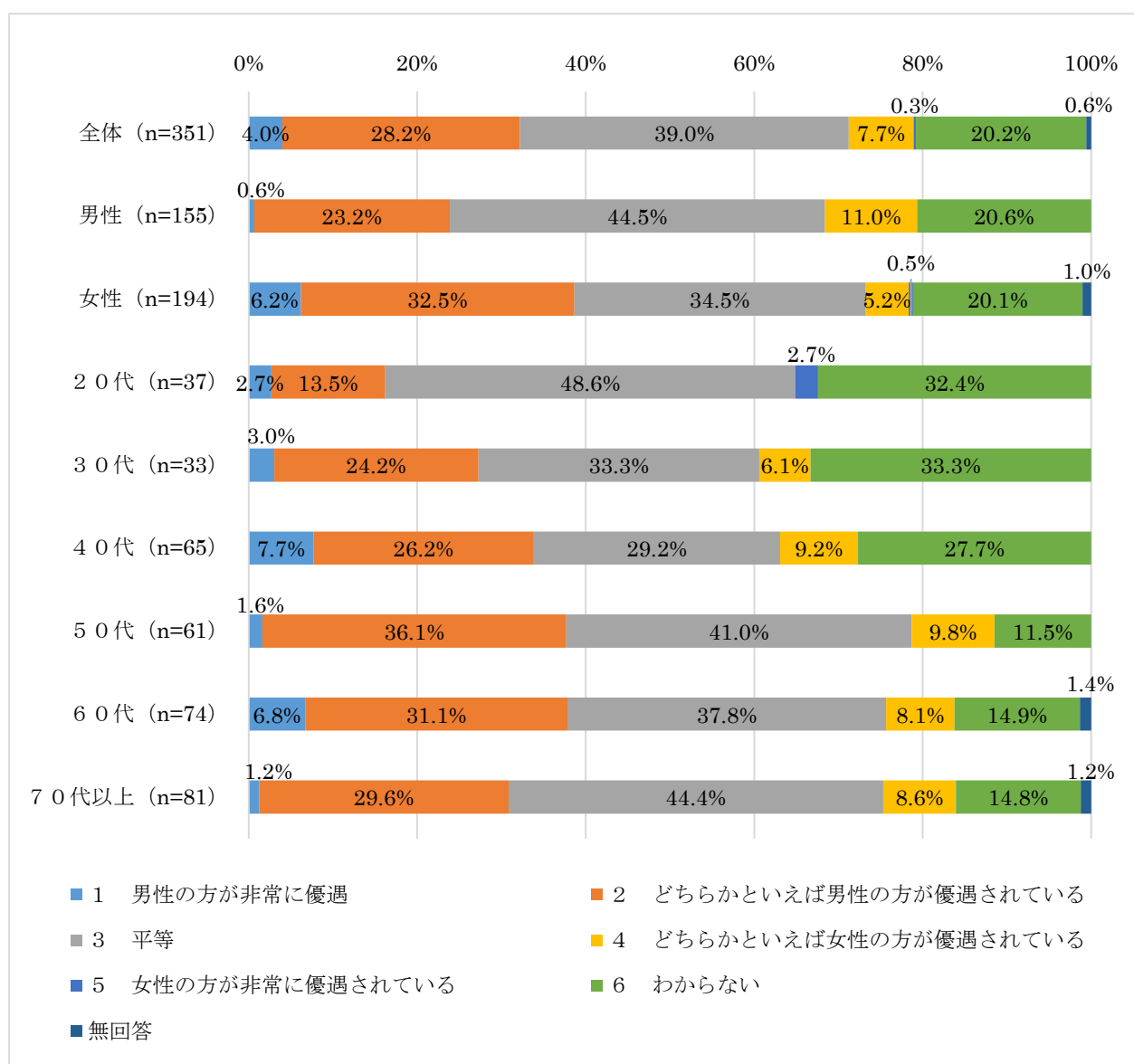
ウ 学校教育の場での男女の地位の平等感



学校教育の場での男女の地位の平等感について、「3 平等」の割合が全体では57.3%（男性63.9%、女性51.5%）で、他の分野と比較して高い。

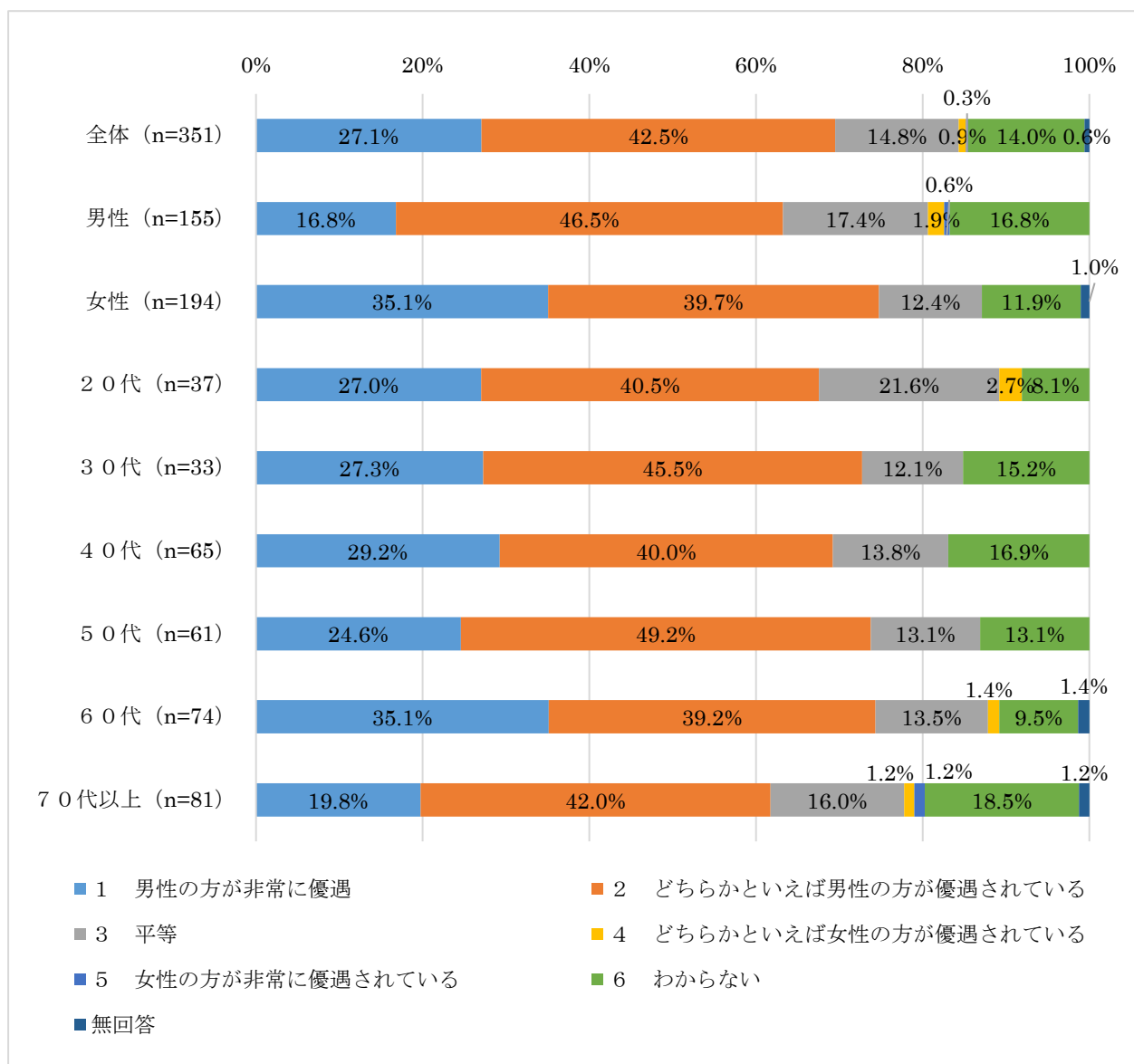
他の分野に比べ学校教育の場では男女が「平等」と感じている割合が高いものの、『男性優遇』の割合（全体15.1%、男性7.7%、女性21.1%）が『女性優遇』の割合（全体2.0%、男性2.6%、女性1.5%）よりも高い。「5 女性の方が非常に優遇されている」と回答する人はいなかった。

エ 地域活動の中での男女の地位の平等感



地域活動の中での男女の地位の平等感について、「3 平等」の割合が全体で39.0%(男性44.5%、女性34.5%)で、『男性優遇』の全体の割合32.2%(男性23.8%、女性38.7%)を上回っている。

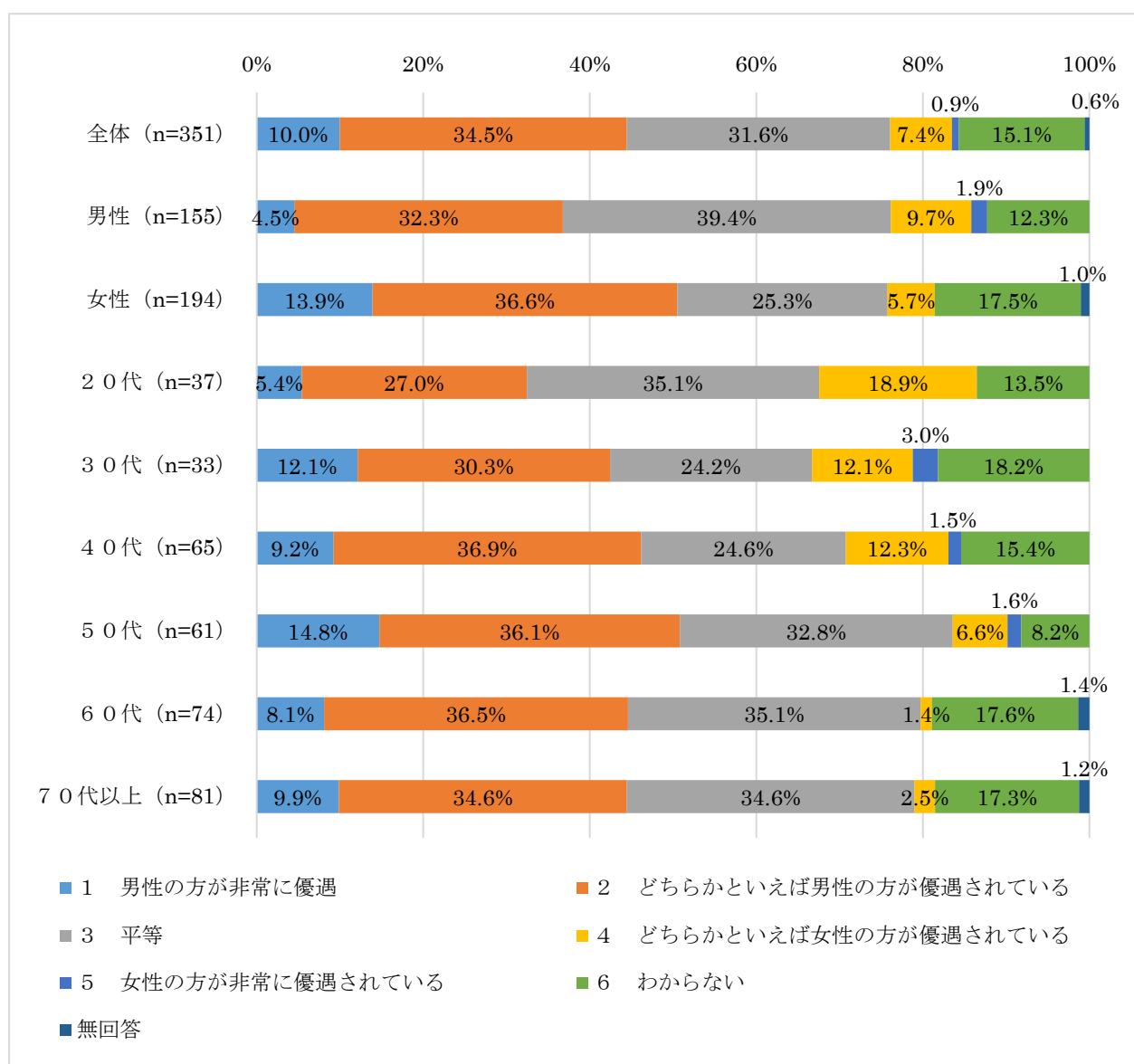
オ 政治経済活動の中での男女の地位の平等感



政治経済活動の中での男女の地位の平等感について、『男性優遇』の割合が全体では69.6%（男性63.3%、女性74.8%）で、「3 平等」と回答された割合は、全体で14.8%（男性17.4%、女性12.4%）を上回っている。

また、『女性優遇』の割合は全体1.2%（男性2.5%、女性0%）と低く、政治経済活動の中では、男性が優遇されていると感じている人が多い。

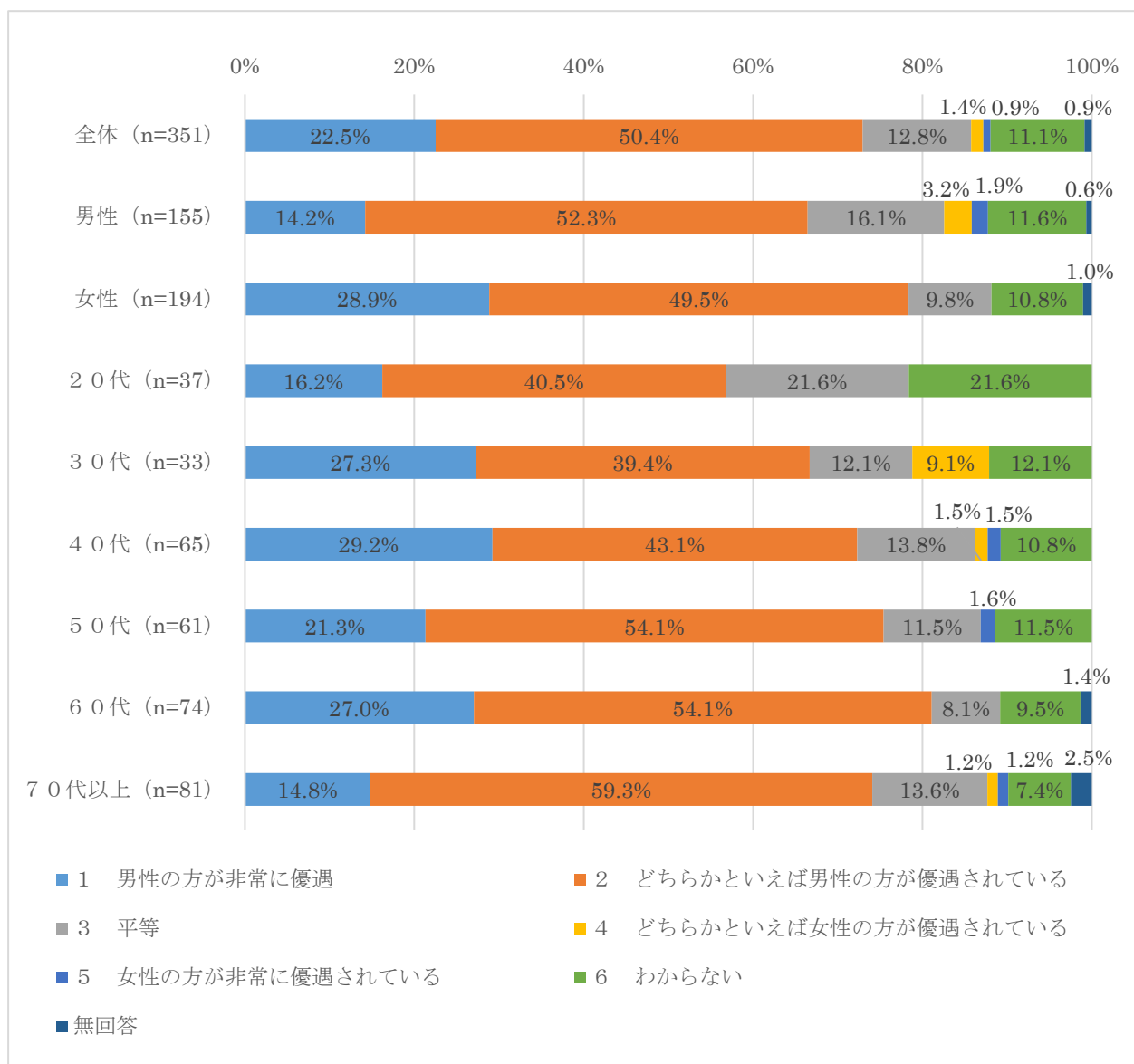
カ 法律や制度の面での男女の地位の平等感



法律や制度の面での男女の地位の平等感について、『男性優遇』の割合が全体で44.5%（男性36.8%、女性50.5%）で、「3 平等」と回答された全体の割合31.6%、（男性39.4%、女性25.3%）を上回っている。

また、『女性優遇』の割合は8.3%（男性11.6%、女性5.7%）と低く、法律や制度の面では、男性が優遇されていると感じている人が多い。

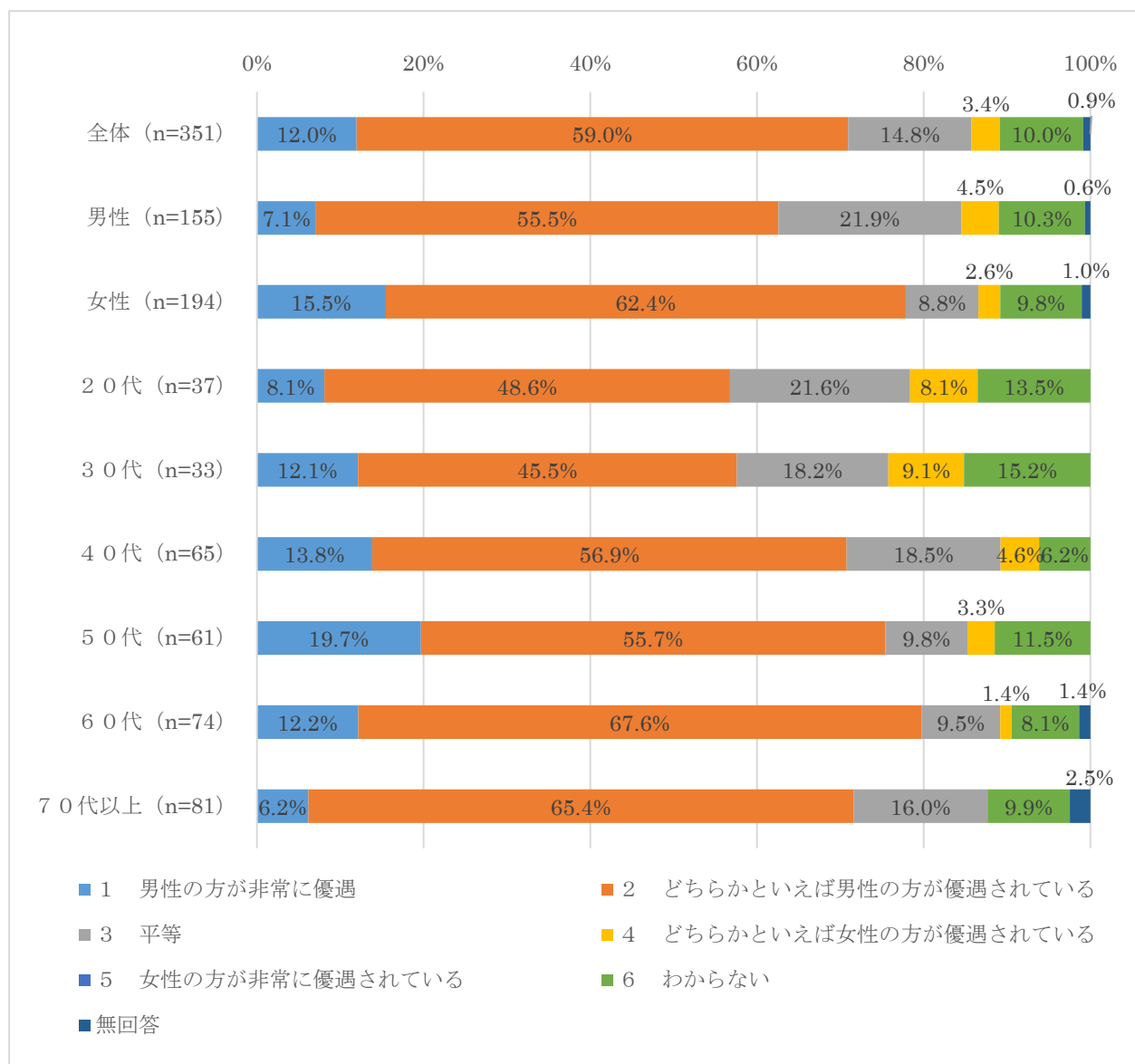
キ 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感



社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感について、『男性優遇』の割合が全体では 72.9%（男性 66.5%、女性 78.4%）で、「3 平等」と回答された全体の割合 12.8%（男性 16.1%、女性 9.8%）を大きく上回っている。

また、『女性優遇』の割合は全体 2.3%（男性 5.1%、女性 0%）と低く、社会通念・慣習・しきたりなどでは、男性が優遇されていると感じている人が多い。

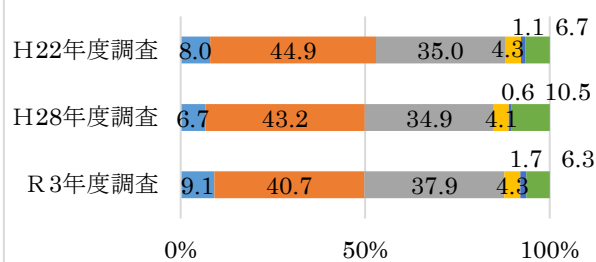
ク 社会全体としての男女の地位の平等感



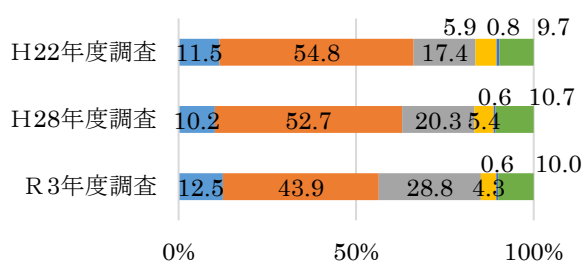
社会全体での男女の地位の平等感について、『男性優遇』の割合が全体が71.0%（男性62.6%、女性77.9%）で、「3 平等」と回答された割合が全体で14.8%（男性21.9%、女性8.8%）を上回っている。

また、『女性優遇』の割合は全体3.4%（男性4.5%、女性2.6%）と低く、社会全体では、男性が優遇されていると感じている人が多い。「5 女性の方が非常に優遇されている」と回答する人はいなかった。

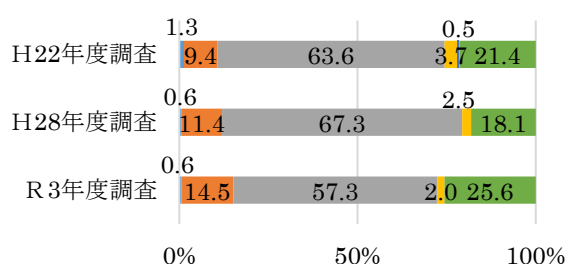
ア 家庭生活の中で



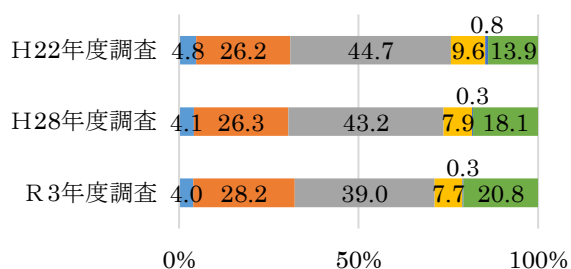
イ 就職の機会や職場の中で



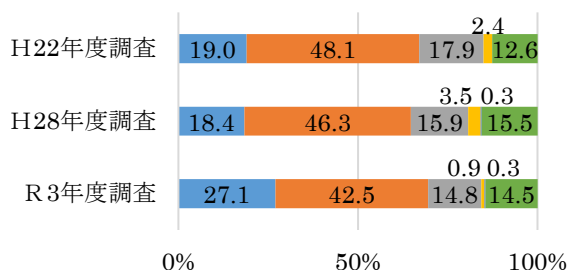
ウ 学校教育の中で



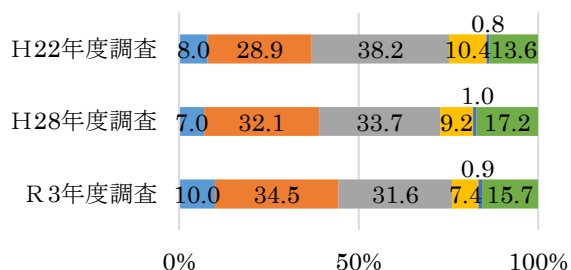
エ 地域活動の中で



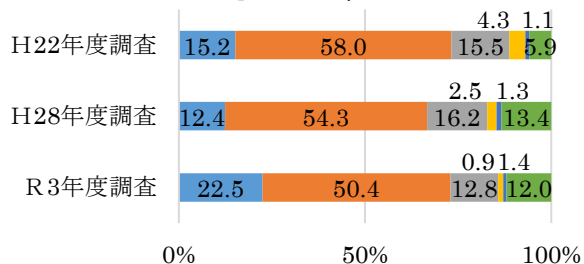
オ 政治経済活動の中で



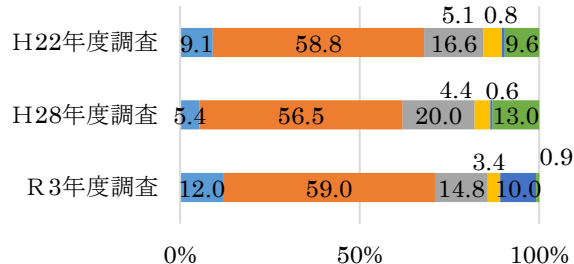
カ 法律や制度の面で



キ 社会通念・慣習・しきたり等で



ク 社会全体として



- 1 男性の方が非常に優遇
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が非常に優遇されている
- 6 わからない
- 無回答

(H22 n=374)

(H28 n=315)

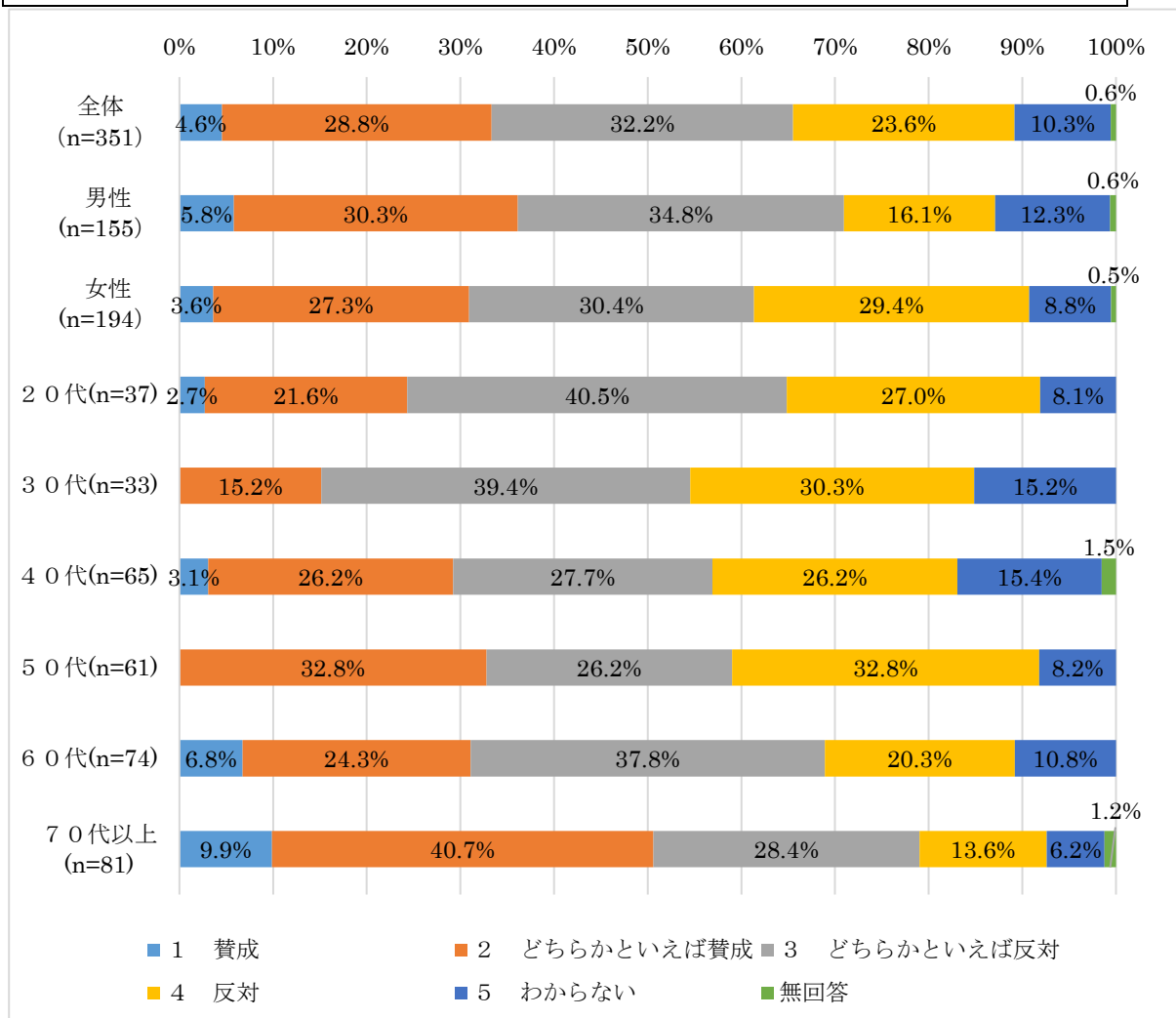
(R 3 n=351)

各分野での男女の地位の平等について、経年比較すると、「3 平等」と回答した割合は、「ア 家庭生活の中で」は35.0%（H22）、34.9%（H28）、37.9%（R3）とやや高くなっている。同様に、「イ 就職の機会や職場の中で」は、17.4%（H22）、20.3%（H28）、28.8%（R3）とやや高くなっている。その他の分野では低下傾向にある。「ク 社会全体として」では、「3 平等」と回答した割合は、16.6%（H22）、20.0%（H28）、14.8%（R3）となった。

『男性優遇』の回答は、「ア 家庭生活の中で」及び「イ 就職の機会や職場の中で」を除き、どれも今回調査が平成22年度調査、平成28年度調査とほぼ同じか上回っている。

(2) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について

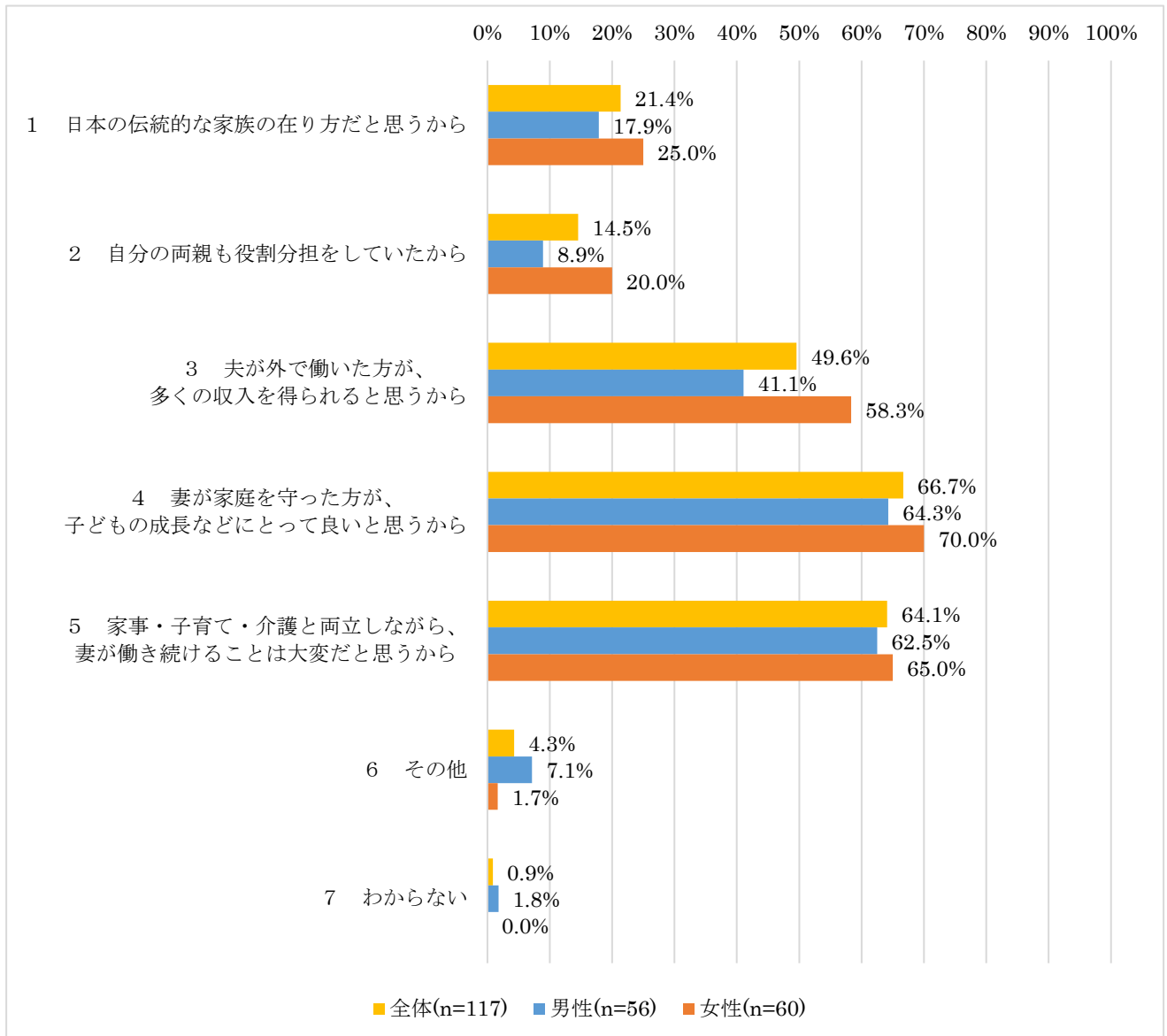
問2-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたのご意見を次の中から1つだけお答えください。



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、「1 賛成」、「2 どちらかといえば賛成」は全体 33.4%、男性 36.1%、女性 30.9%、「3 どちらかといえば反対」、「4 反対」は全体 55.8%、男性 50.9%、女性 59.8%であった。半数以上が「3 どちらかといえば反対」、「4 反対」であるが、依然として30%以上の人が「1 賛成」、「2 どちらかといえば賛成」と回答している。

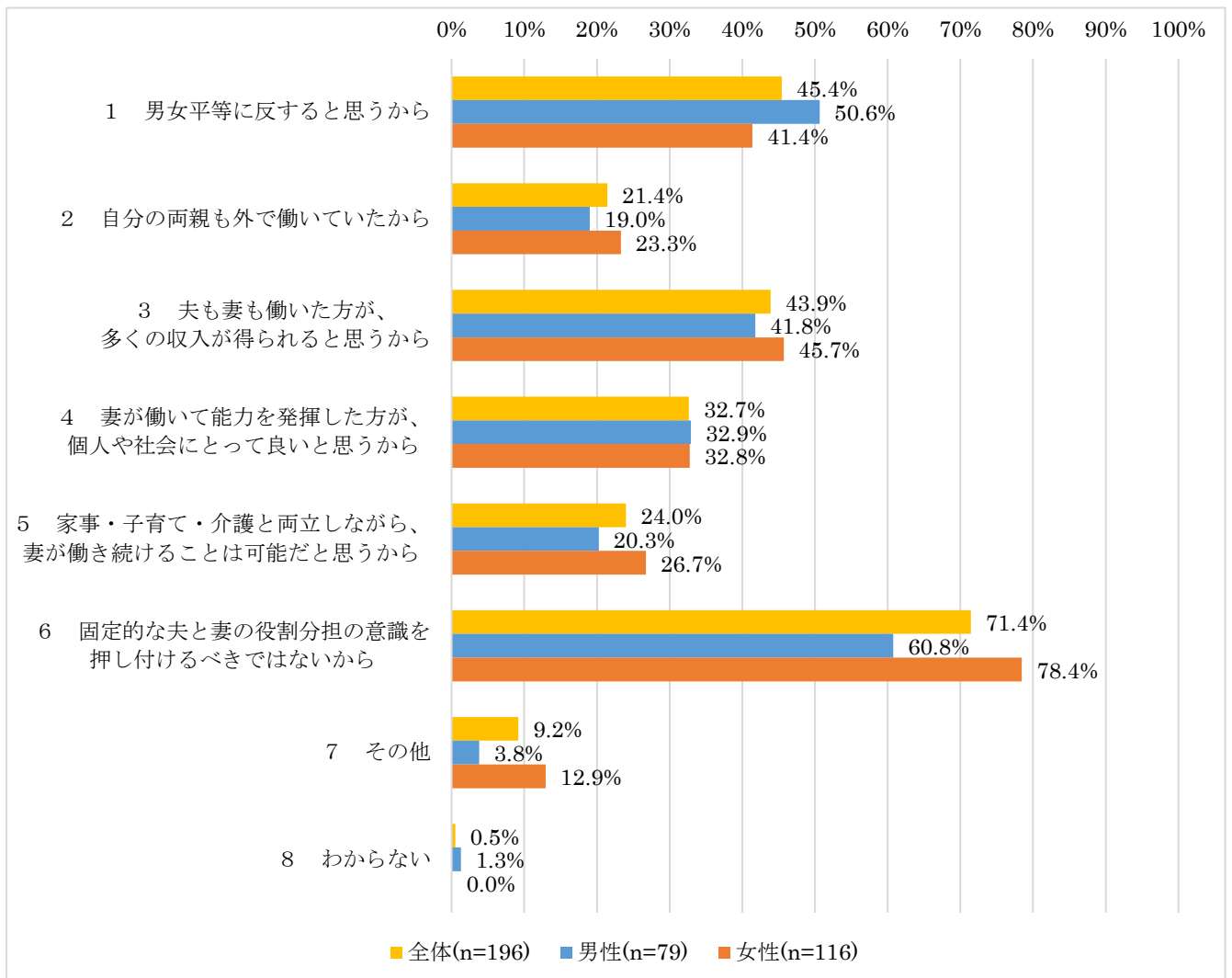
年代別にみると、「1 賛成」、「2 どちらかといえば賛成」の回答割合が、70代以上では、過半数を超えている。

問2-2 問2-1で「1」または「2」と回答した方に伺います。その理由を次の中からいくつでもあげてください。



問2-1で「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に「1 賛成」または「2 どちらかといえば賛成」を選択した理由を聞いたところ、最も回答割合が高かったのは「4 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が全体 66.7%（男性 64.3%、女性 70.0%）、次いで「5 家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が全体 64.1%（男性 62.5%、女性 65.0%）、「3 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が全体 49.6%（男性 41.1%、女性 58.3%）であった。

問2-3 問2-1で「3」または「4」と回答した方に伺います。その理由を次の中からいくつでもあげてください。

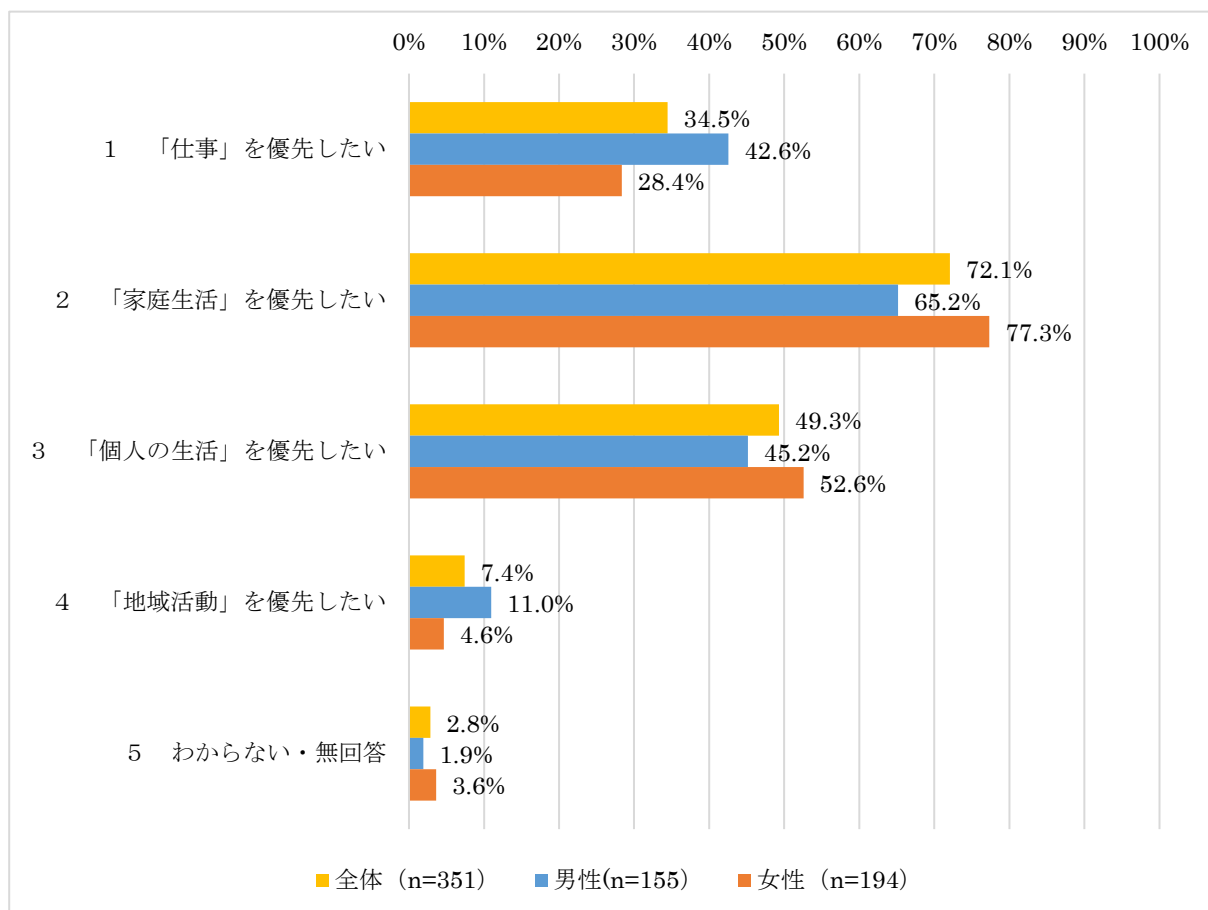


問2-1で「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に「3 どちらかといえば反対」または「4 反対」を選択した理由を聞いたところ、最も回答割合が高かったのは、「6 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」が全体71.4%（男性60.8%、女性78.4%）、次いで「1 男女平等に反すると思うから」が全体45.4%（男性50.6%、女性41.4%）、「3 夫も妻も働いた方が多くの収入が得られると思うから」が全体43.9%（男性41.8%、女性45.7%）であった。

2 仕事と家庭生活等の両立について

(1) 「仕事」「家庭生活（家事・子育て・介護等）」、「個人の生活（学習・趣味・付き合い等）」、「自治会や地区等の地域活動」の優先度

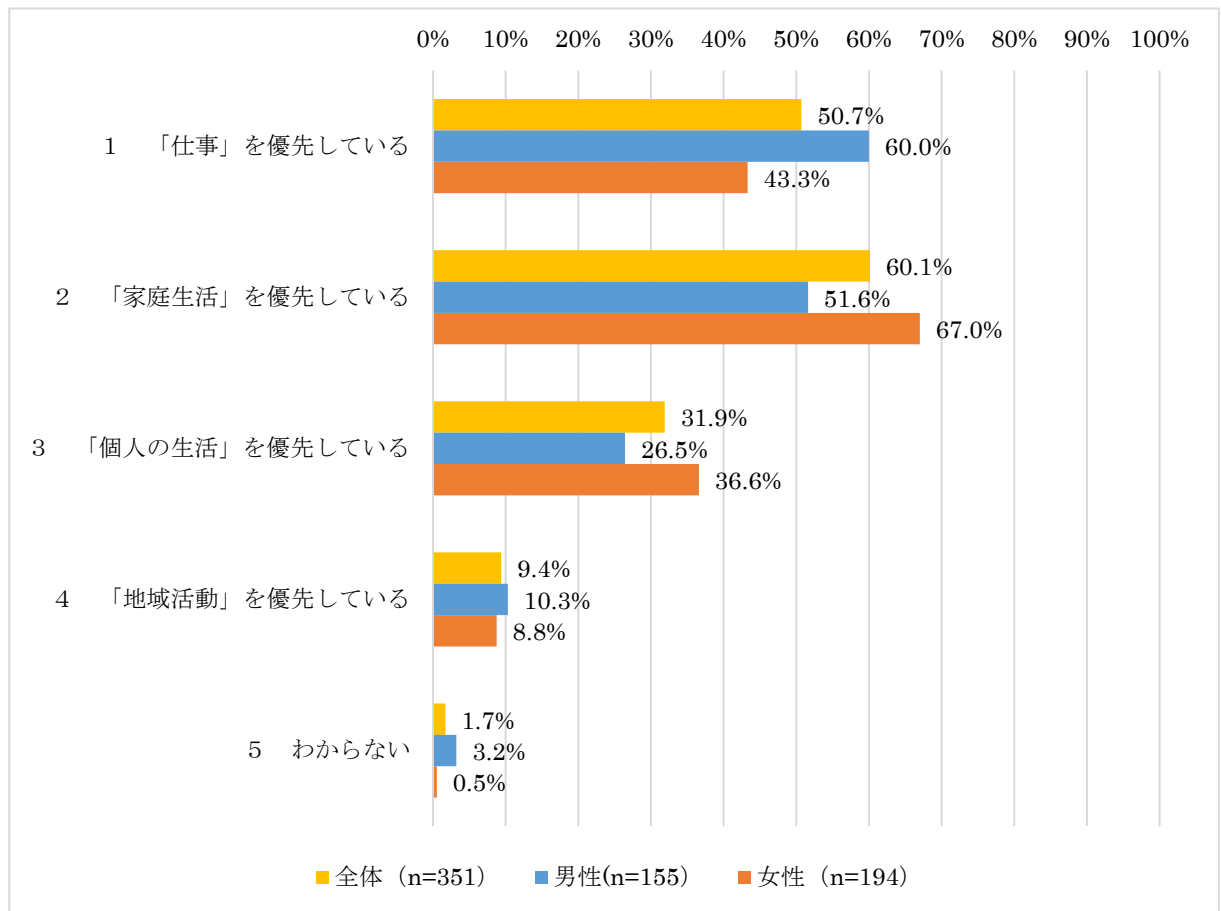
問3-1 生活の中での、「仕事」、「家庭生活（家事・子育て・介護等）」、「個人の生活（学習・趣味・付き合い等）」、「自治会や地区等の地域活動」の優先度についてお伺いします。まず、あなたの希望に近いものを次の中からいくつでもあげてください。



「仕事、家庭生活、個人の生活、自治会や地区等の地域活動の優先度」の希望について聞いたところ、「2 家庭生活を優先したい」が全体で 72.1%（男性 65.2%、女性 77.3%）で最も割合が高く、次いで「3 個人の生活を優先したい」が全体で 49.3%（男性 45.2%、女性 52.6%）、「1 仕事を優先したい」が全体で 34.5%（男性 42.6%、女性 28.4%）であった。

性別にみると、「2 家庭生活」及び「3 個人の生活」を優先したいという割合は男性より女性の方が高く、「1 仕事」及び「4 地域活動」を優先したいという割合は女性より男性の方が高い。

問3-2 それでは、あなたの現実（現状）に近いものを次の中からいくつかもあげてください。

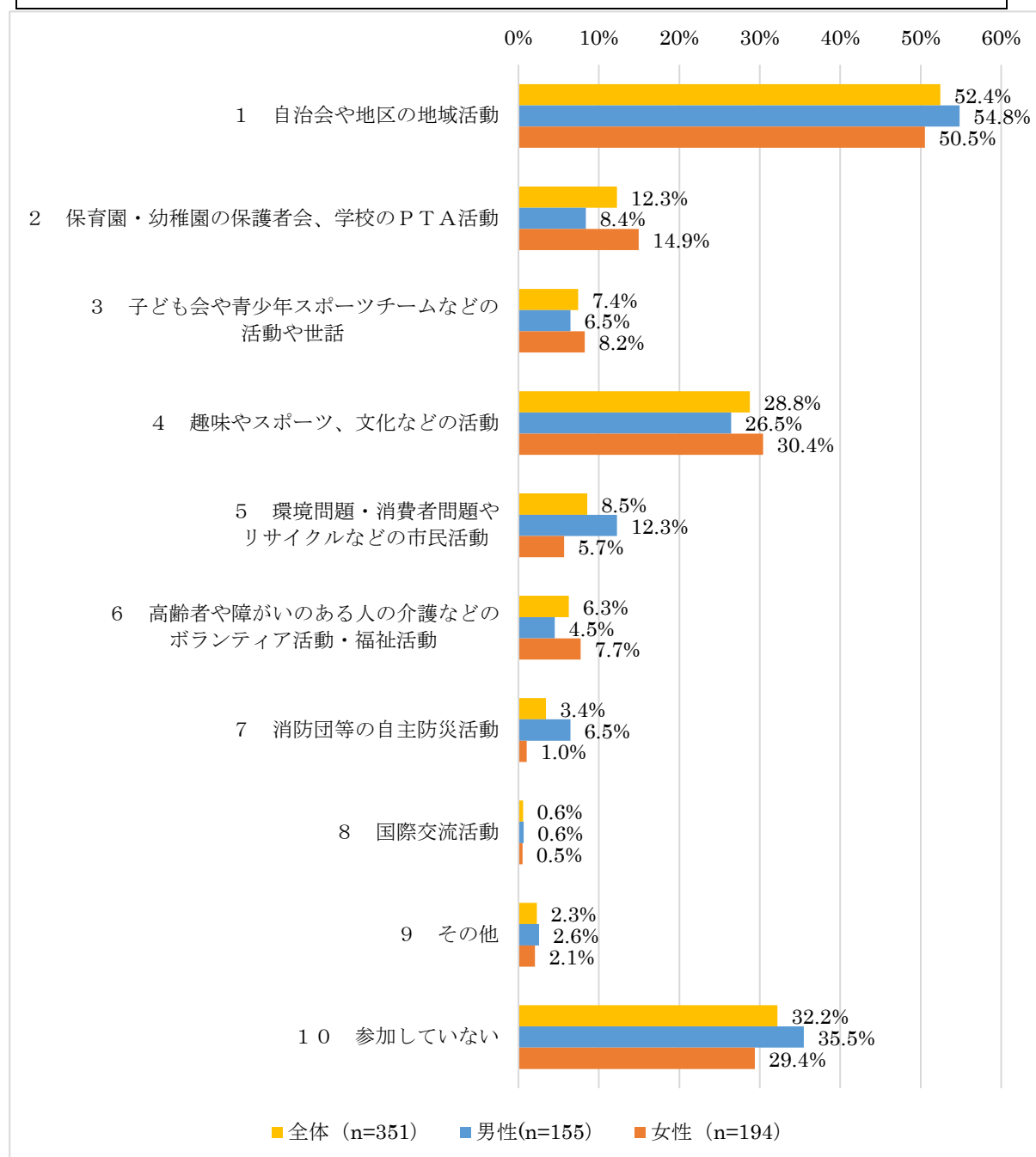


生活の中で現状として優先しているものは、「2 家庭生活を優先している」が全体で60.1%（男性51.6%、女性67.0%）と最も割合が高く、次いで「1 仕事を優先している」が全体50.7%（男性60.0%、女性43.3%）、「3 個人の生活を優先している」が全体で31.9%（男性26.5%、女性36.6%）となっている。

性別で見ると、「2 家庭生活」及び「3 個人の生活」を優先しているという割合は男性より女性の方が高く、「1 仕事」及び「4 地域活動」を優先しているという割合は女性より男性の方が高い。また、男性は「1 仕事」を優先している割合が最も高く、その次に「2 家庭生活」が高いのに対し、女性は「2 家庭生活」を優先している割合が最も高く、その次に「1 仕事」が高くなっている。

(2) 地域活動への参加

問4 あなたは、この1年間に、次に掲げるような地域活動に参加したことがありますか。次の中からいくつでもあげてください。

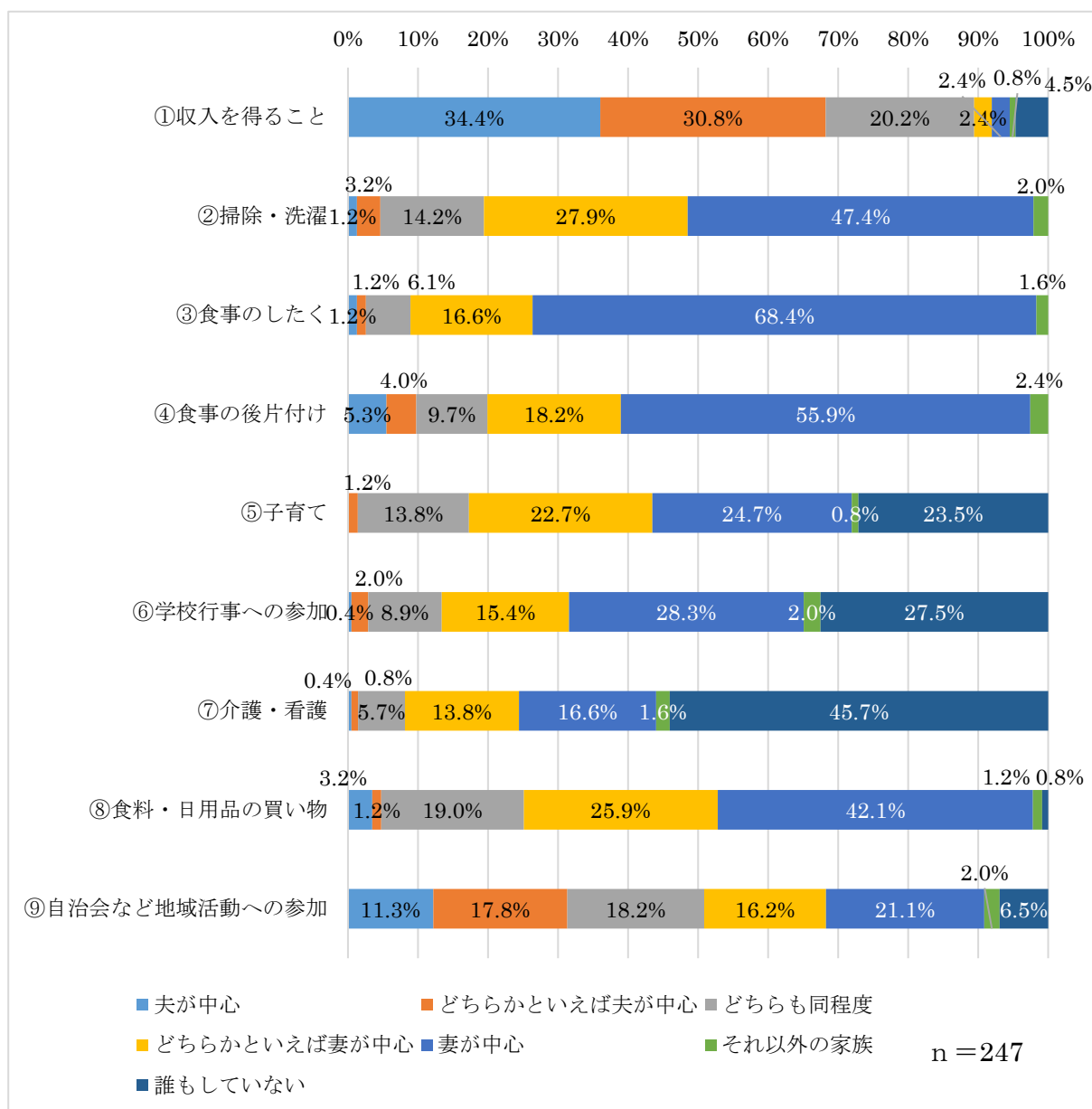


この1年間に参加した地域活動について、最も割合が高かったのは「1 自治会や地区の地域活動」が全体で52.4%（男性54.8%、女性50.5%）で。次いで「4 趣味やスポーツ、文化などの活動」が全体で28.8%（男性26.5%、女性30.4%）、「2 保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTA活動」が全体12.3%（男性8.4%、女性14.9%）であった。地域活動に参加していない割合は全体で32.2%（男性35.5%、女性29.4%）であった。

(3) 家庭における役割分担

パートナー（配偶者）と同居している方におたずねします。

問5 あなたの家庭において、収入を得ることや家事、子育て、介護・看護、地域活動への参加など、あなたとパートナー（配偶者）のどちらが分担していますか。各項目につき1つずつお答えください。



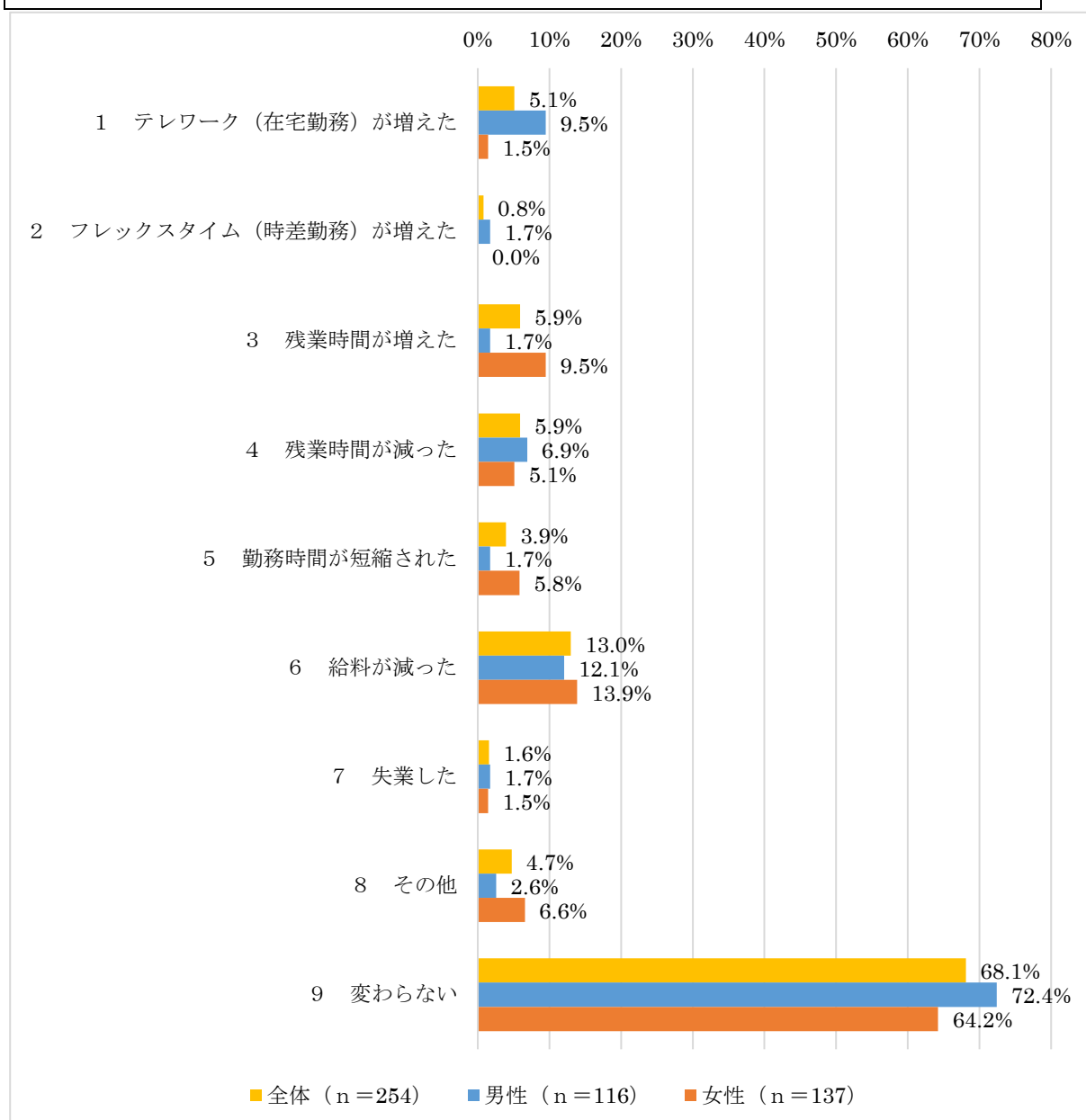
家庭におけるパートナーとの分担について、「①収入を得ること」は全体の過半数以上が「夫が中心」又は「どちらかといえば夫が中心」と答えた。「②掃除・洗濯」「③食事のしたく」「④食事の後片付け」「⑧食料・日用品の買い物」については、全体の過半数以上が「どちらかといえば妻が中心」・「妻が中心」と答えた。

(調査時、回答の選択肢は「夫」及び「妻」ではなく、「自分」及び「パートナー」を用いて表記し、性別により集計し直している。)

(4)新型コロナウイルス感染拡大による労働状況の変化

現在仕事をしている方、または最近まで仕事をしていた方におたずねします。

問6 新型コロナウイルス感染拡大によって、あなたの労働状況で変わったことはありますか。次の中からあてはまるものをいくつでもあげてください。

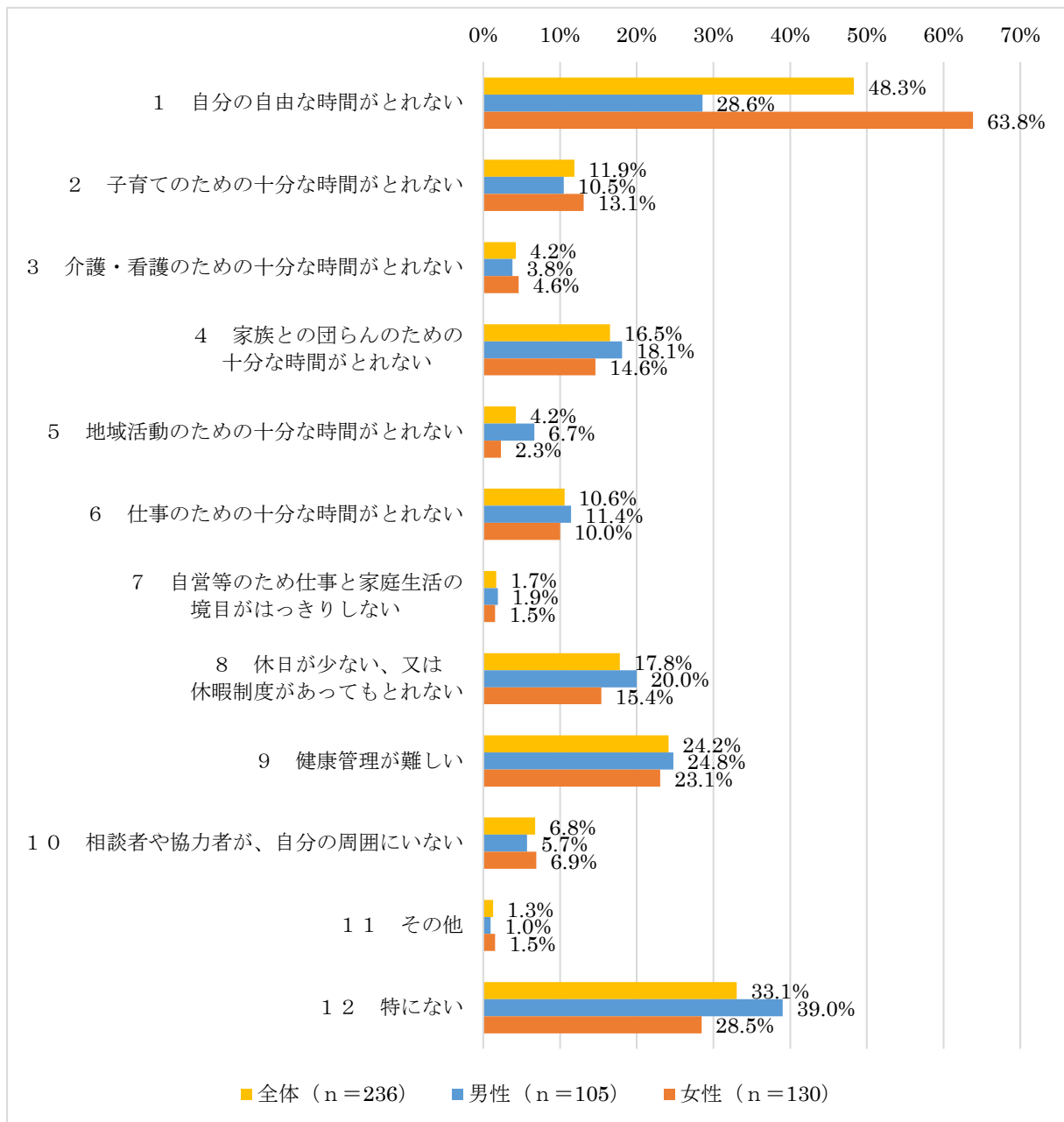


新型コロナウイルス感染拡大によって、労働状況が変わったかどうか聞いたところ、「9 変わらない」が全体で68.1%（男性72.4%、女性64.2%）であった。変わった内容として最も割合が高かったのは、「6 給料が減った」で全体13.0%、（男性12.1%、女性13.9%）で、次いで「3 残業時間が増えた」が全体5.9%（男性1.7%、女性9.5%）及び「4 残業時間が減った」全体5.9%（男性6.9%、女性5.1%）であった。

(5) 仕事と仕事以外の生活の両立についての不安や悩み

問7から問9-2までは、現在仕事をしている方におたずねします。

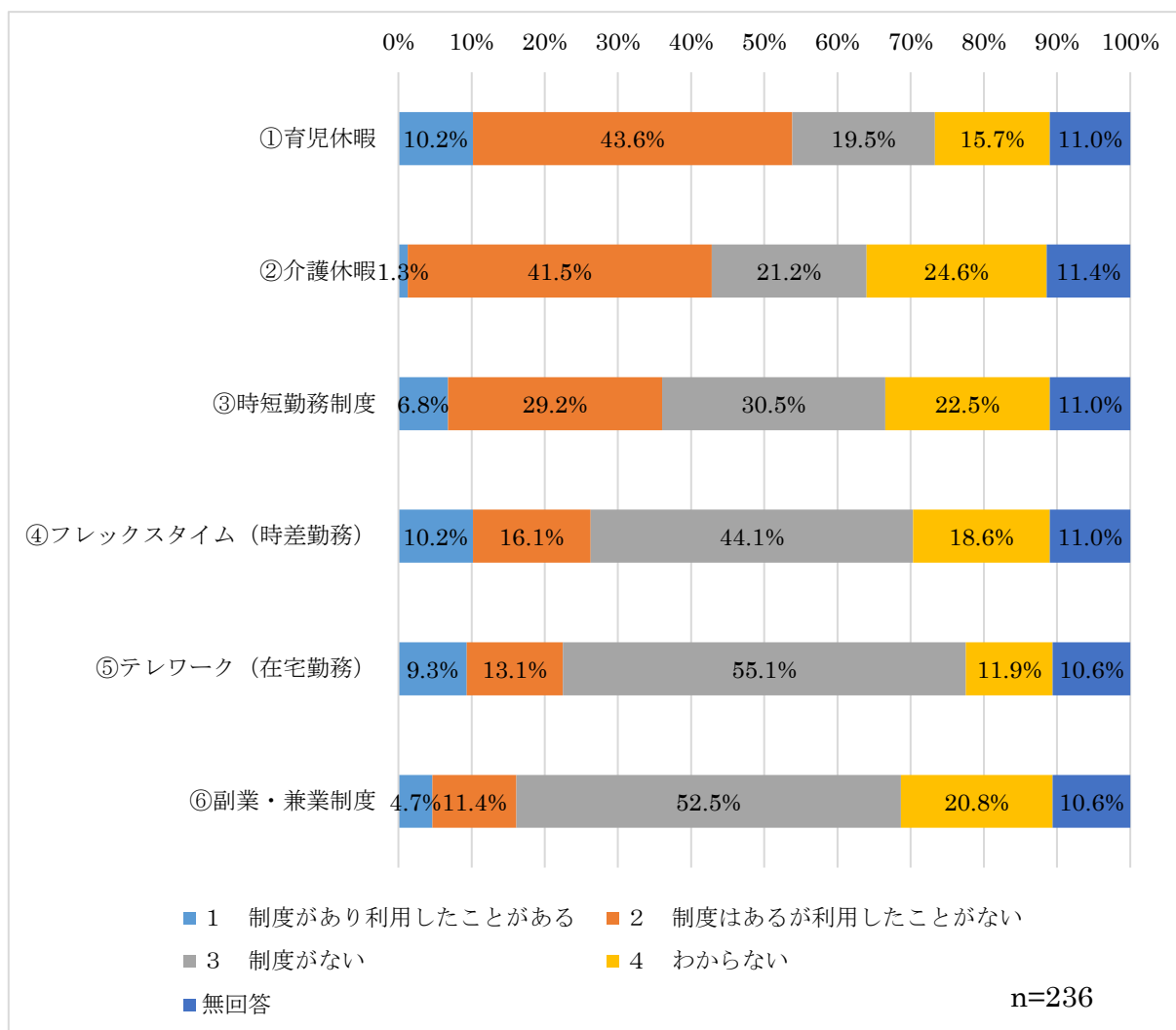
問7 あなたは、仕事と仕事以外の生活の両立について、不安や悩みがありますか。次の中からいくつでもあげてください。



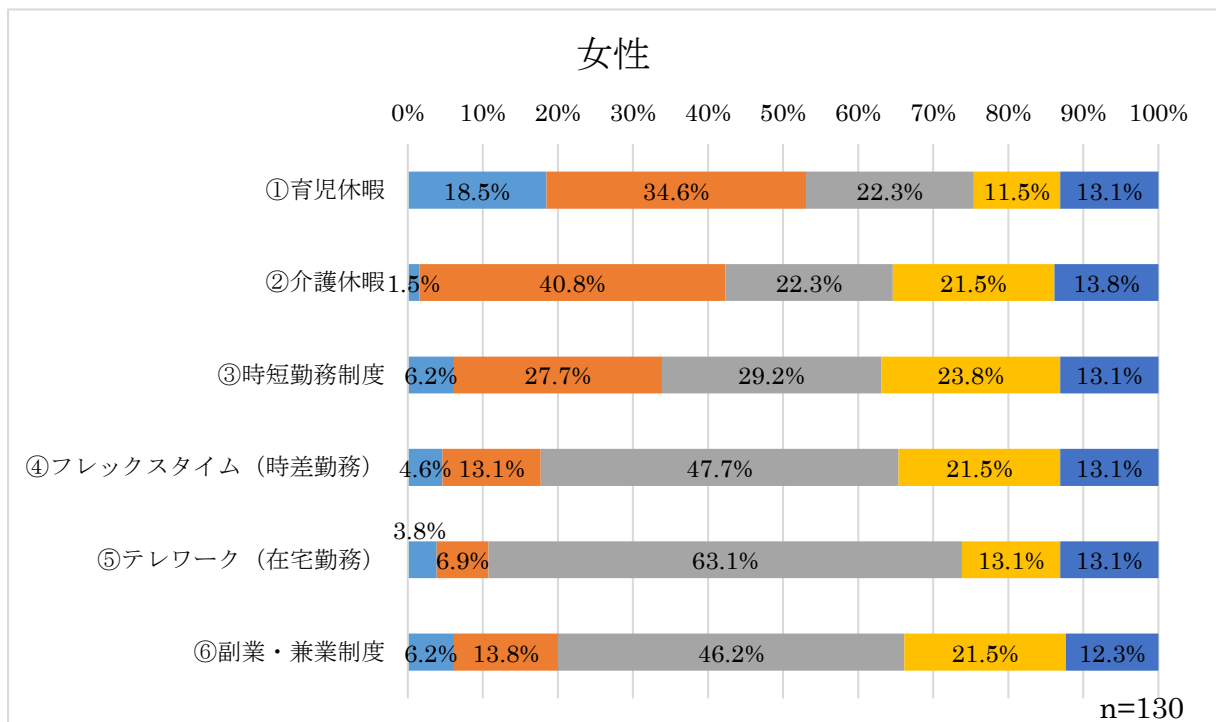
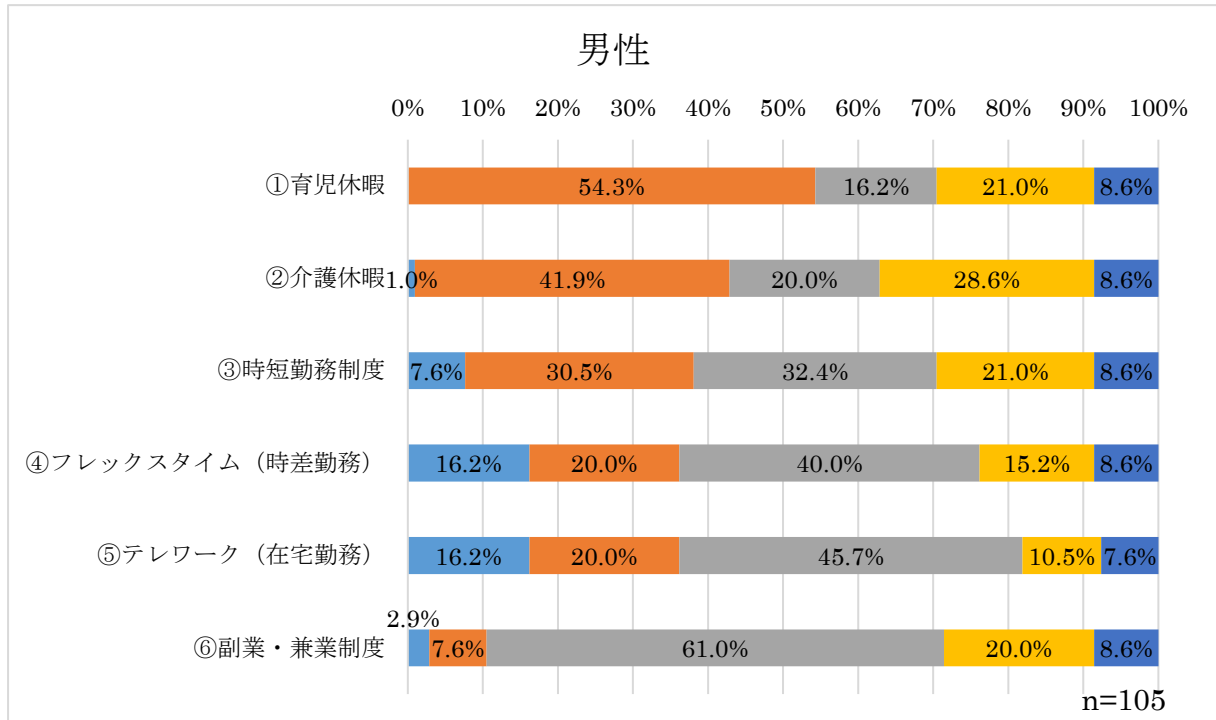
仕事と仕事以外の生活の両立における不安や悩みがあるか聞いたところ、全体及び女性では「1 自分の自由な時間がとれない」全体 48.3%(男性 28.6%、女性 63.8%)が最も割合が多く、次いで「12 特にない」全体 33.1%(男性 39.0%、女性 28.5%)で、「9 健康管理が難しい」が全体 24.2%(男性 24.8%、女性 23.1%)であった。男性は、「12 特にない」(39.0%)の割合が最も多く、次いで「1 自分の自由な時間がとれない」(28.6%)、「9 健康管理が難しい」(24.8%)の順であった。

(6) 育児休暇等制度の利用

問 8 - 1 次の①～⑥の制度がありますか。また、利用したことがありますか。それぞれの項目に対しあてはまるものを1つだけお答えください。



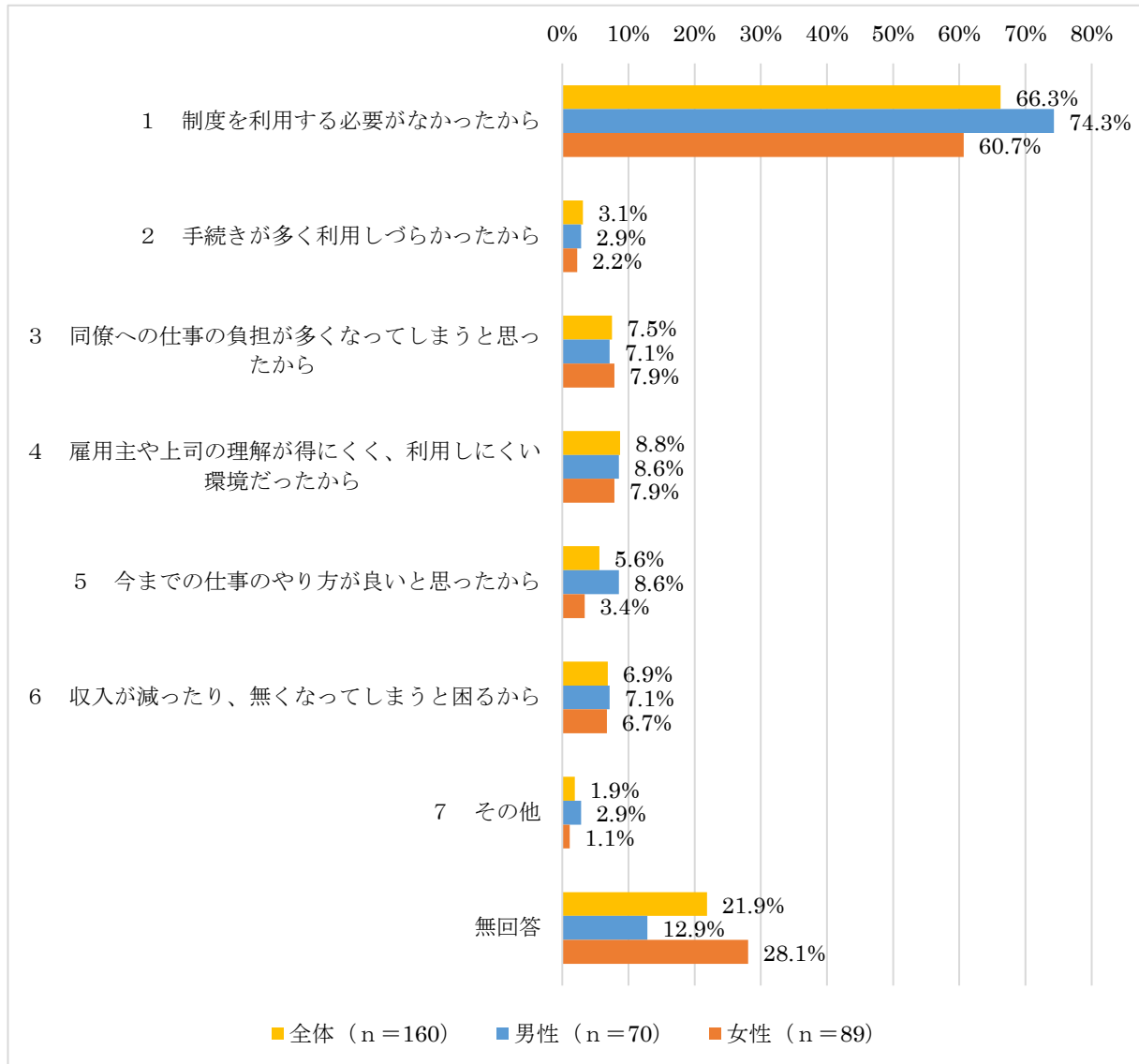
育児や介護、働き方に関する制度の利用状況について、「①育児休暇」「②介護休暇」については「2 制度はあるが利用したことがない」の割合が最も高いが、その他の制度では「3 制度がない」の割合が最も高くなっている。いずれの制度においても、「1 制度があり利用したことがある」より「2 制度はあるが利用したことがない」の方が割合が高かった。



- 1 制度があり利用したことがある
- 2 制度はあるが利用したことがない
- 3 制度がない
- 4 わからない
- 5 無回答

性別にみると、「①育児休暇」において、「1 制度があり利用したことがある」が男性0%、女性18.5%となっており、「2 制度はあるが利用したことがない」が男性54.3%、女性34.6%となっており、男女間の差がある。「③時短勤務制度」「④フレックスタイム (時差勤務)」「⑤テレワーク (在宅勤務)」において、「1 制度があり利用したことがある」が女性より男性の割合の方が高い。

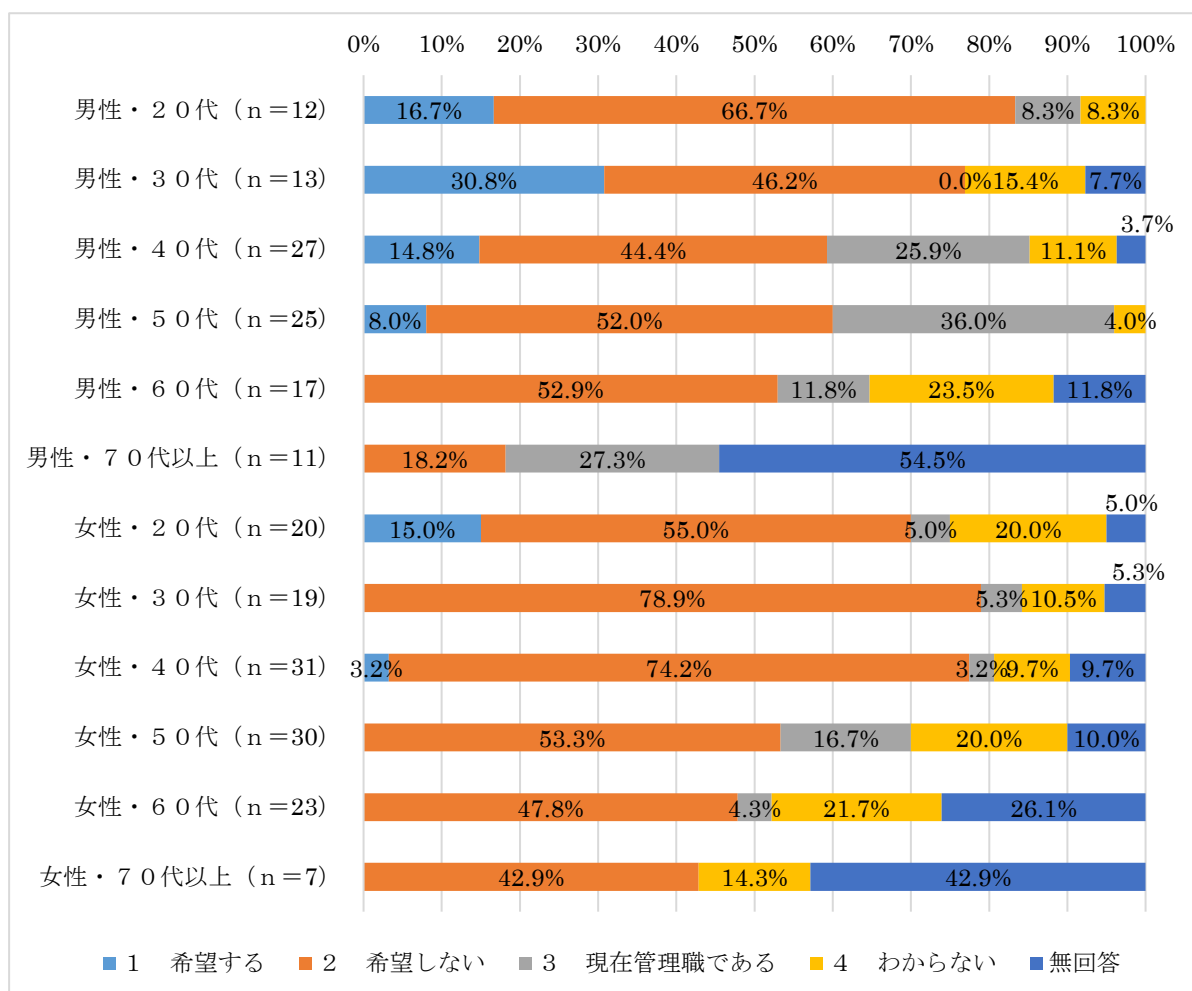
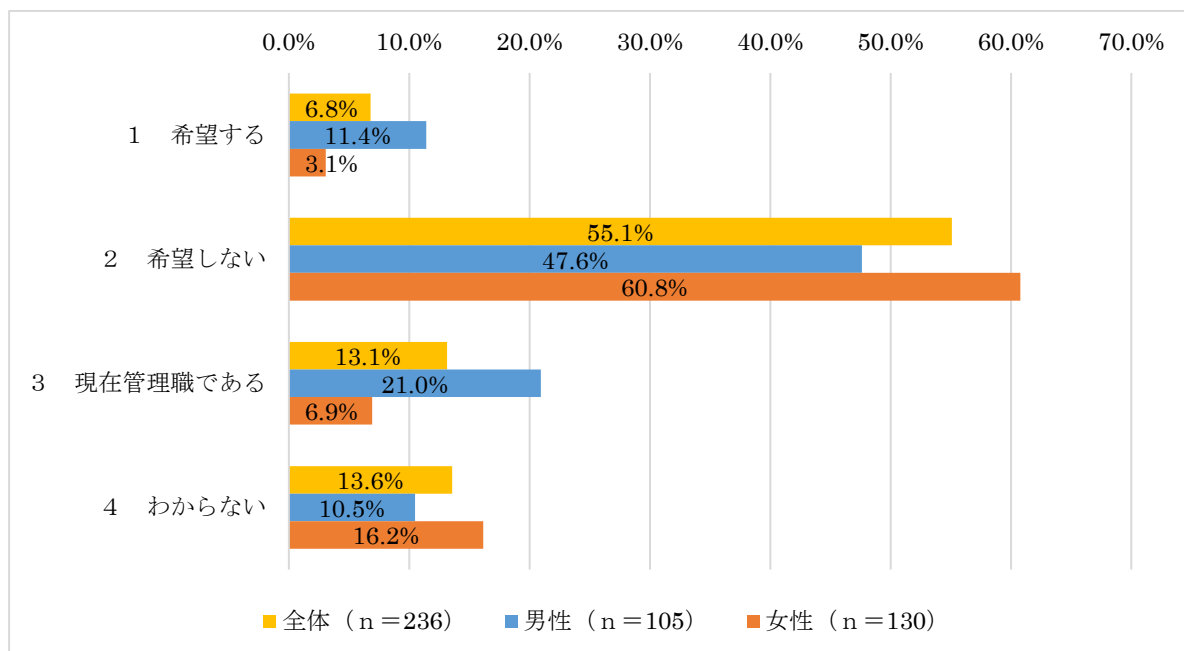
問8-2 問8-1で「2 制度はあるが利用したことがない」を1つでも選んだ方に伺います。その理由は何ですか。次の中からいくつでもあげてください。



問8-1で「2 制度はあるが利用したことがない」を1つでも選んだ理由として割合が最も高かったのは「1 制度を利用する必要がなかったから」が全体で66.3%（男性74.3%、女性60.7%）で、次いで「4 雇用主や上司の理解が得にくく、利用しにくい環境だったから」が全体8.8%（男性8.6%、女性7.9%）、「3 同僚への仕事の負担が多くなってしまうと思ったから」が全体7.5%（男性7.1%、7.9%）であった。

(7) 管理職への昇格希望

問9-1 あなたは管理職（課長相当職以上）への昇格を希望していますか。
次の中から1つだけお答えください。

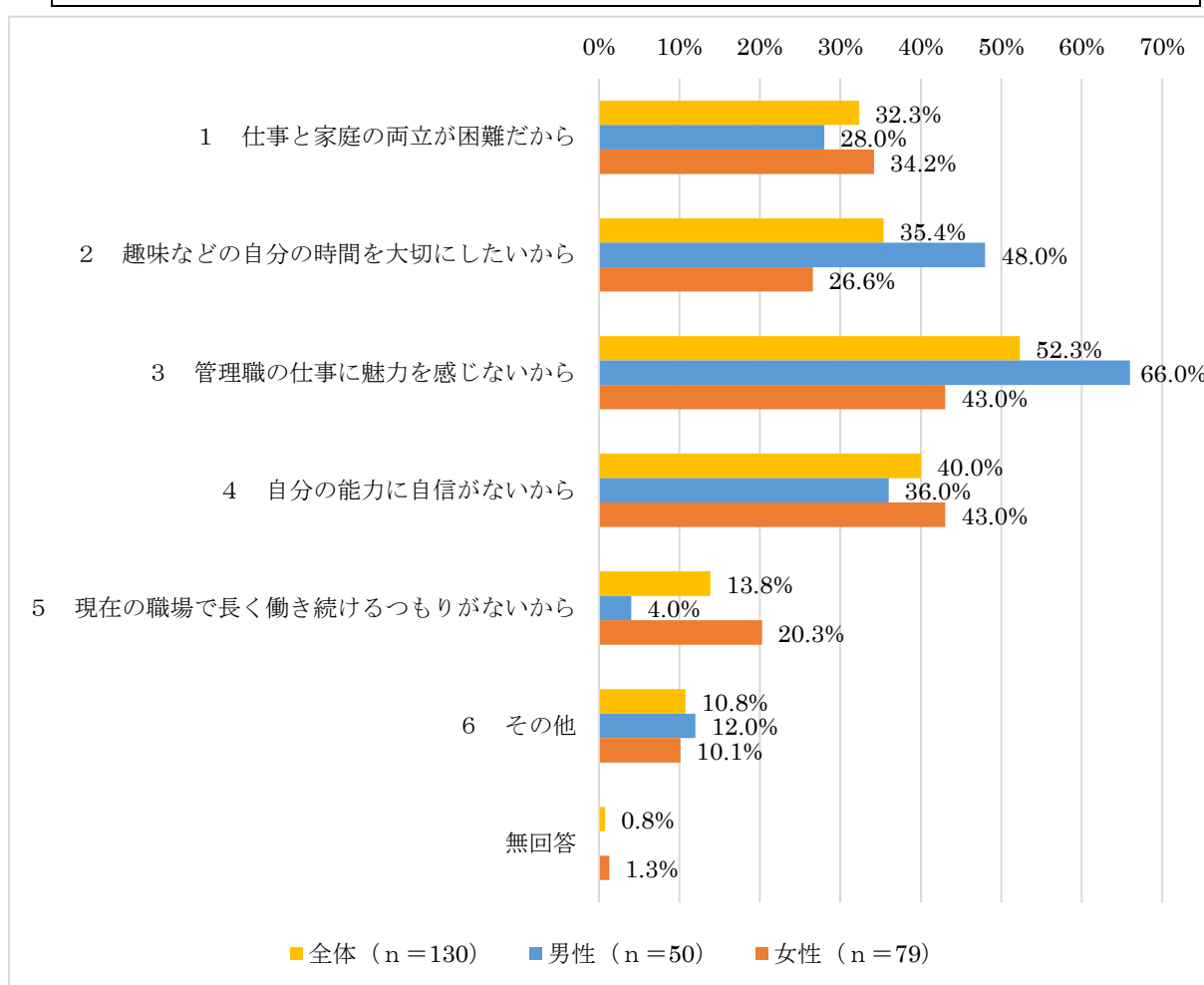


管理職への昇格希望について、「1 希望する」の割合は全体 6.8%（男性 11.4%、女性 3.1%）であるのに対し、「2 希望しない」の割合は全体 55.1%（男性 47.6%、女性 60.8%）と「希望しない」割合の方が高かった。

現在管理職であると答えた割合は男性が 21.0%、女性が 6.9%であった。

性別及び年代別でみると、男性は 20代(16.7%)、30代(30.8%)、40代(14.8%)、50代(8.0%)に管理職への昇格を希望する人がいるが、女性では、20代(15.0%)・40代(3.2%)しか昇格を希望する人がおらず、割合も男性より低い。

問 9 - 2 問 9 - 1 で「2. 希望しない」を選んだ方に伺います。希望しない理由を次の中からいくつでもあげてください。

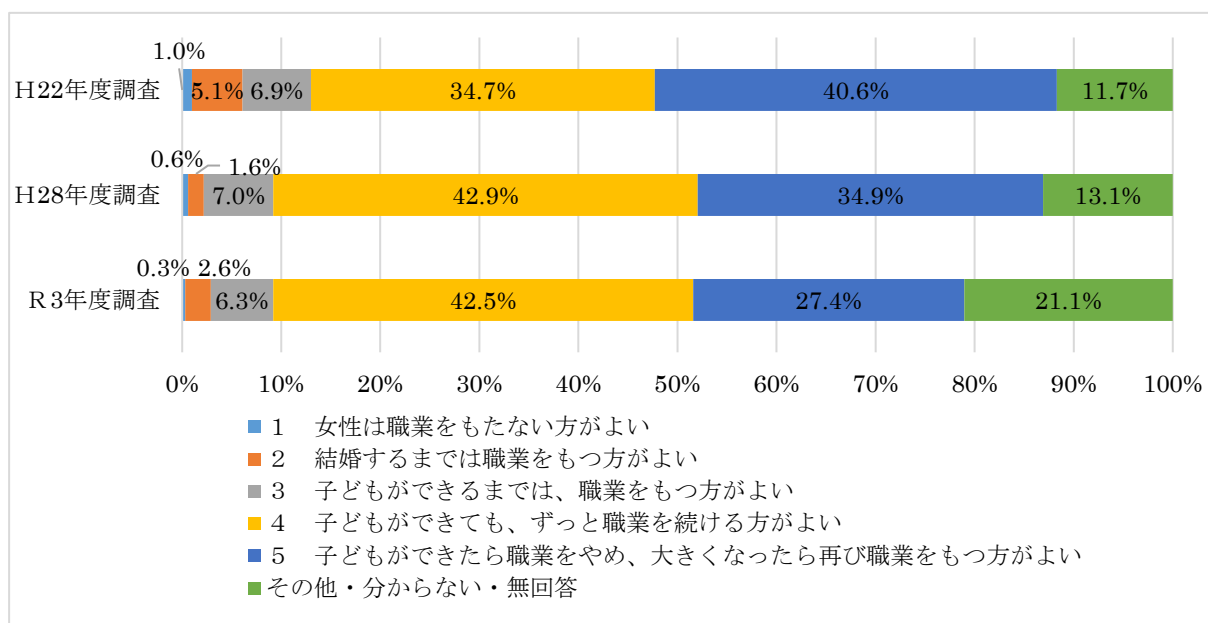
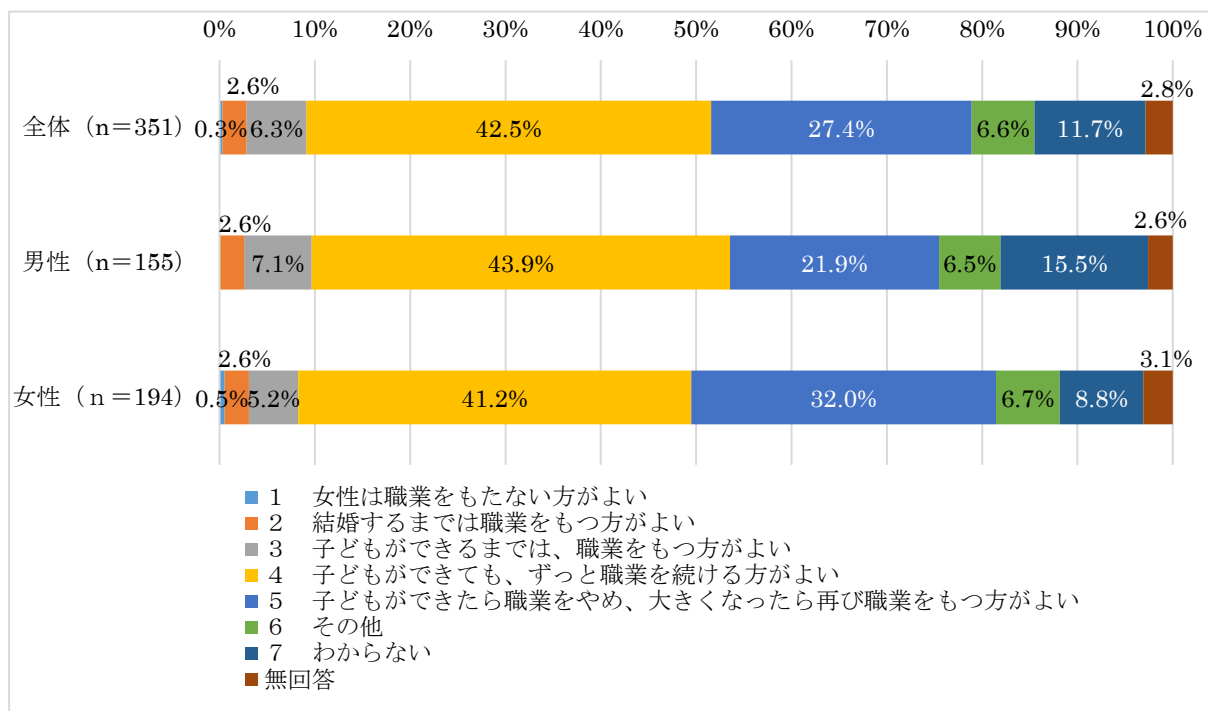


管理職を「2 希望しない」理由について、最も割合が高かったのは「3 管理職の仕事に魅力を感じないから」が全体で 52.3%（男性 66.0%、女性 43.0%）で、次いで「4 自分の能力に自信がないから」が全体で 40.0%（男性 36.0%、女性 43.0%）、「2 趣味などの自分の時間を大切にしたいから」が全体で 35.4%（男性 48.0%、女性 26.6%）であった。

3 女性の就労・活躍について

(1) 女性が職業をもつことについて

問10-1 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つだけお答えください。

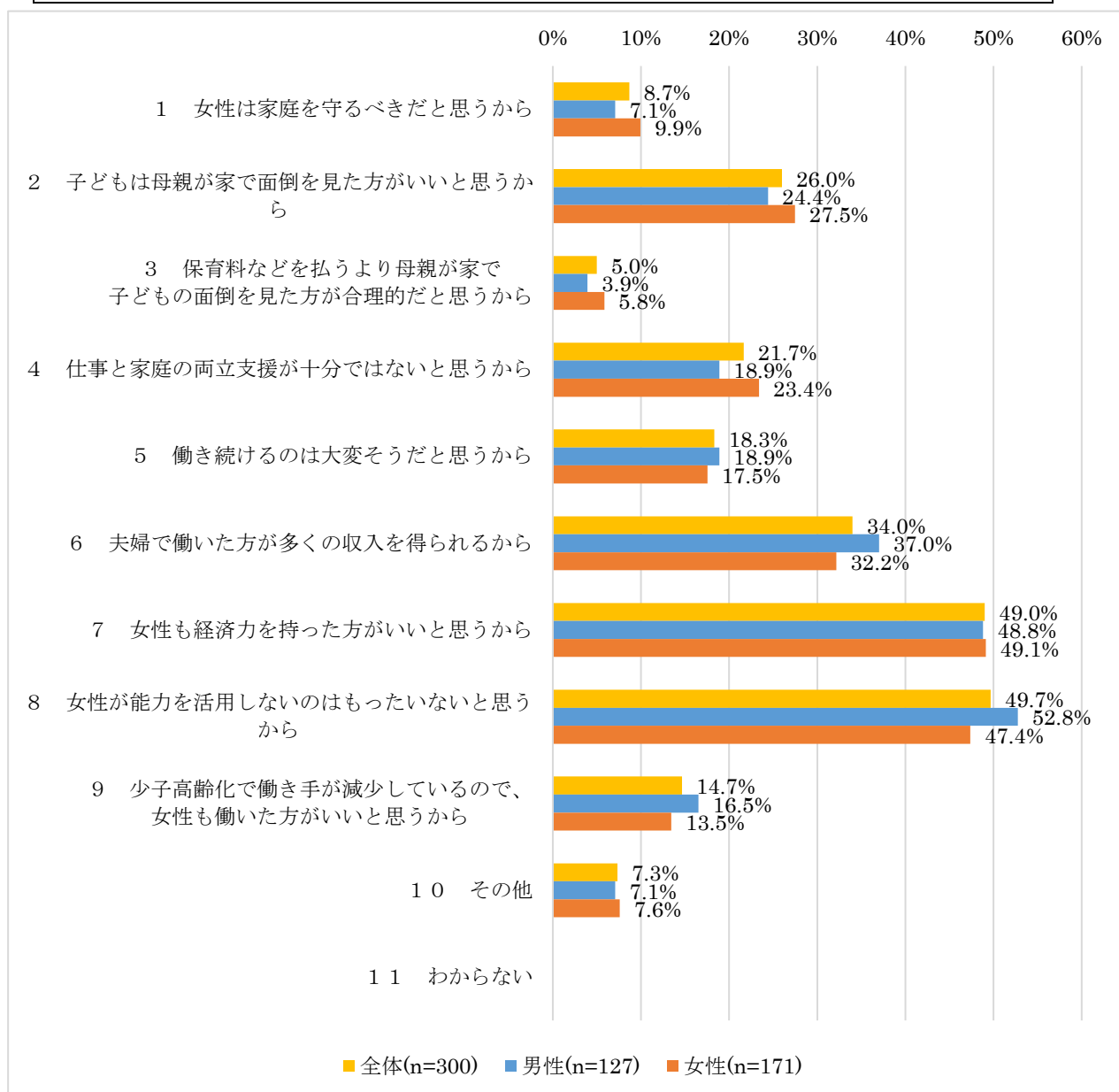


女性が職業をもつことについて考えを聞いたところ、割合が最も高いのは「4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が全体 42.5%（男性 43.9%、女性 41.2%）、次いで「5 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が全体 27.4%（男性 21.9%、女性 32.0%）となっている。

経年比較すると、「4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合

がH22年度 34.7%、H28年度 42.9%、R3年度 42.5%と高くなる傾向にある。「5 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合はH22年度 40.6%、H28年度 34.9%、R3年度 27.4%と、低くなっている。

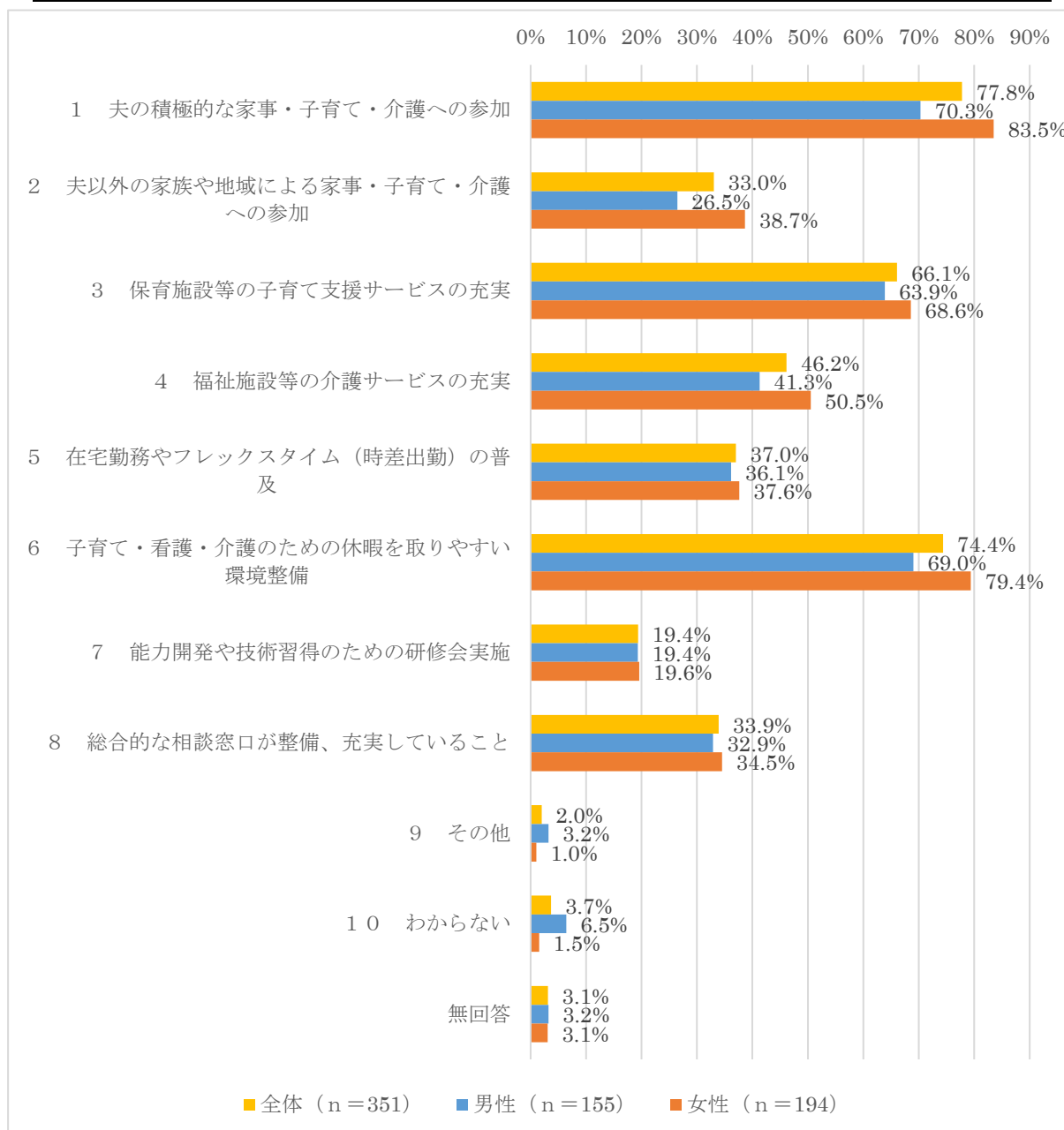
問10-2 問10-1で「1」～「6」を選択したのはなぜですか。次の中からいくつでもあげてください。



問10-1で女性が職業をもつことについて回答した理由を聞いたところ、最も割合が高かったのは、「8 女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」が全体 49.7%（男性 52.8%、女性 47.4%）、次いで「7 女性も経済力を持った方がいいと思うから」が全体 49.0%（男性 48.8%、女性 49.1%）、「6 夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」が全体 34.0%（男性 37.0%、女性 32.2%）であった。

(2) 女性の就職、就労継続に必要なこと

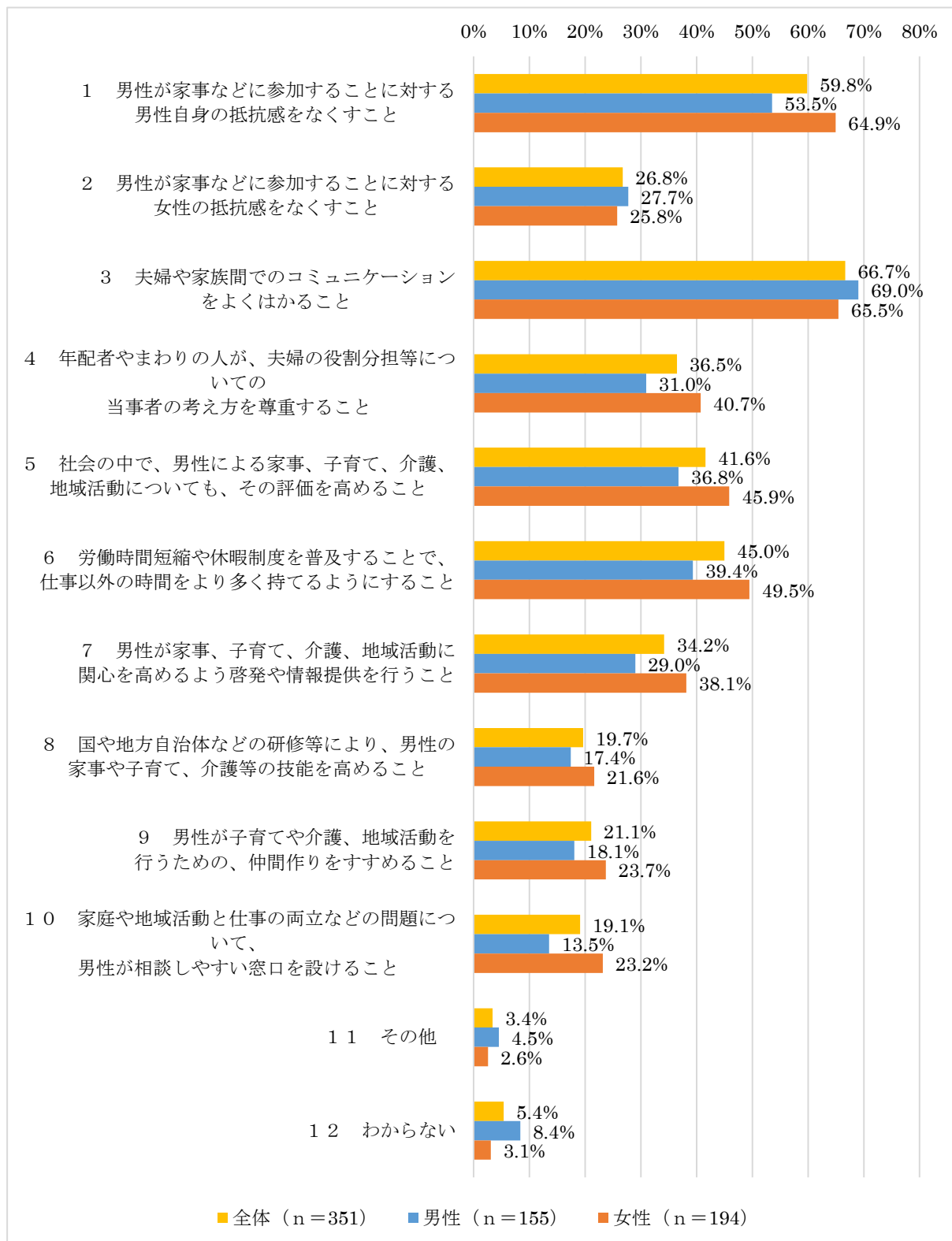
問 1 1 あなたは、働く意欲のある女性が就職したり、働き続けたりするためには、家族や社会等でどのようなことが必要と思いますか。次の中からいくつかでもあげてください。



働く意欲のある女性が就職したり、働き続けたりするために必要なことについて、最も割合が高かったのは「1 夫の積極的な家事・子育て・介護への参加」全体 77.8%（男性 70.3%、女性 83.5%）で、次いで「6 子育て・看護・介護のための休暇を取りやすい環境整備」が全体 74.4%（男性 69.0%、79.4%）、「3 保育施設等の子育て支援サービスの充実」が全体 66.1%（男性 63.9%、女性 68.6%）であった。

(3) 男性の参画に必要なこと

問 1 2 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からいくつかもあげてください。



男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことを聞いたところ、最も割合が高かった回答は、「3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が全体 66.7%（男性 69.0%、女性 65.5%）、次いで「1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が全体 59.8%（男性 53.5%、女性 64.9%）、「6 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が全体 45.0%（男性 39.4%、女性 49.5%）であった。

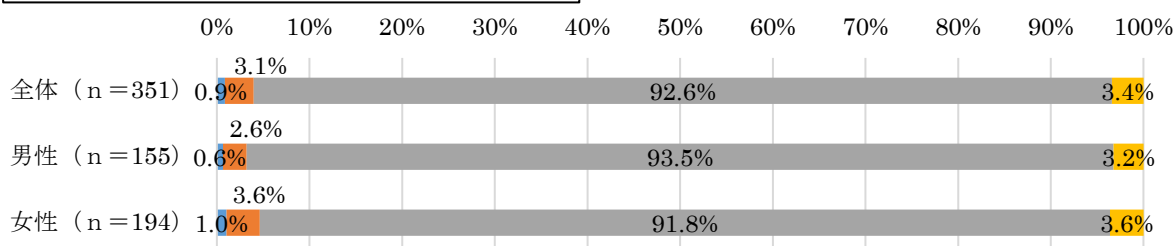
4 男女間における暴力について

(1) 配偶者等からの暴力被害の有無・相談先

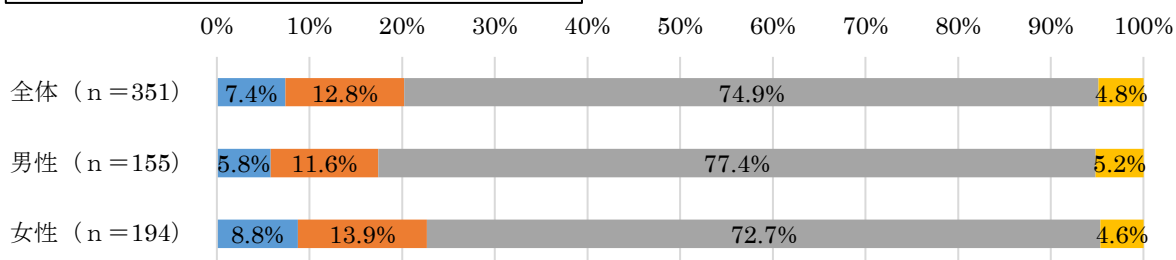
問13-1 あなたは、この5年間に配偶者や交際相手などから次の「ア」～「エ」に示す暴力を受けたことがありますか。次の中から項目ごとに1つずつお答えください。

■ 1 何度もあった ■ 2 1、2度あった ■ 3 まったくない ■ 無回答

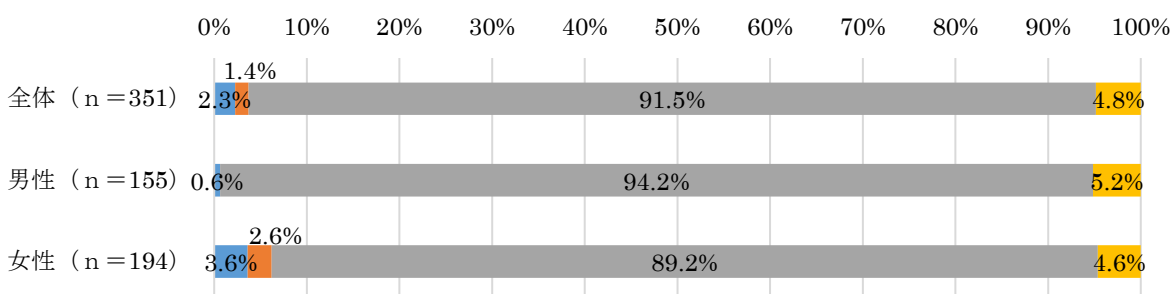
ア 身体的暴行（身体的な暴力）



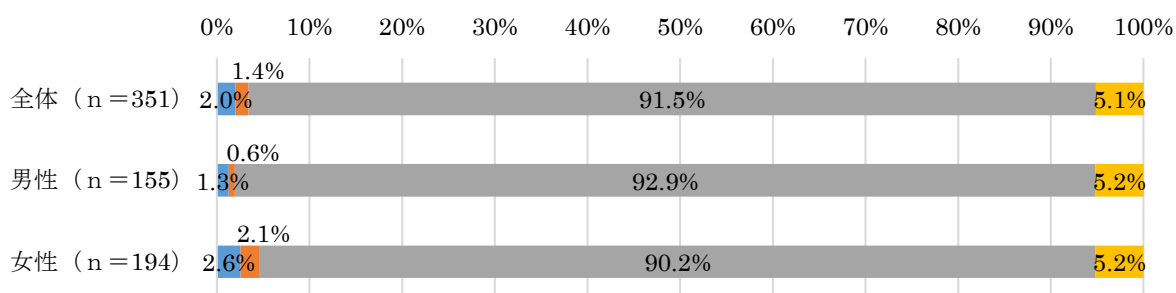
イ 心理的攻撃（精神的な暴力）



ウ 経済的圧迫（経済的な暴力）

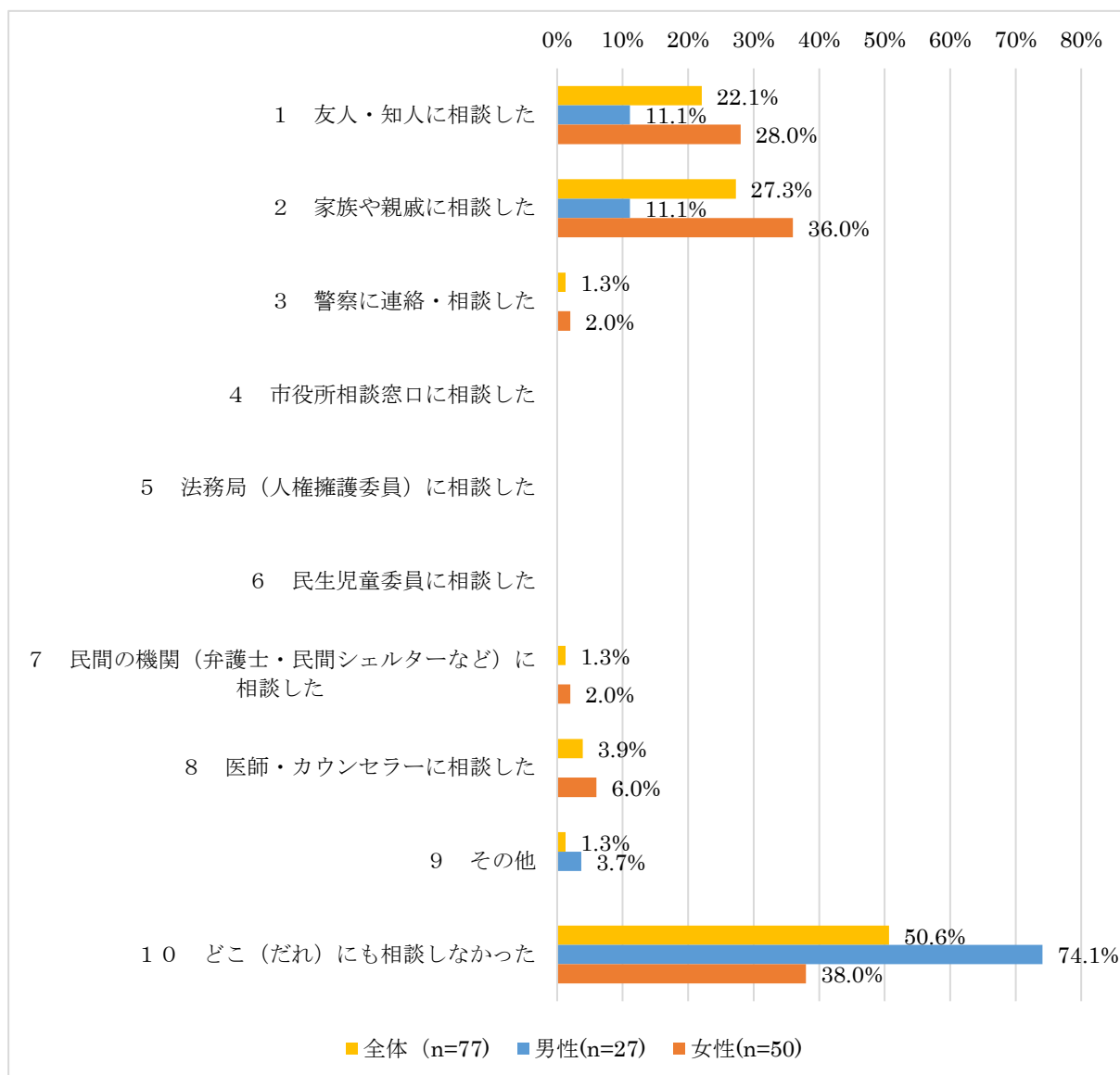


エ 性的強要（性的な暴力）



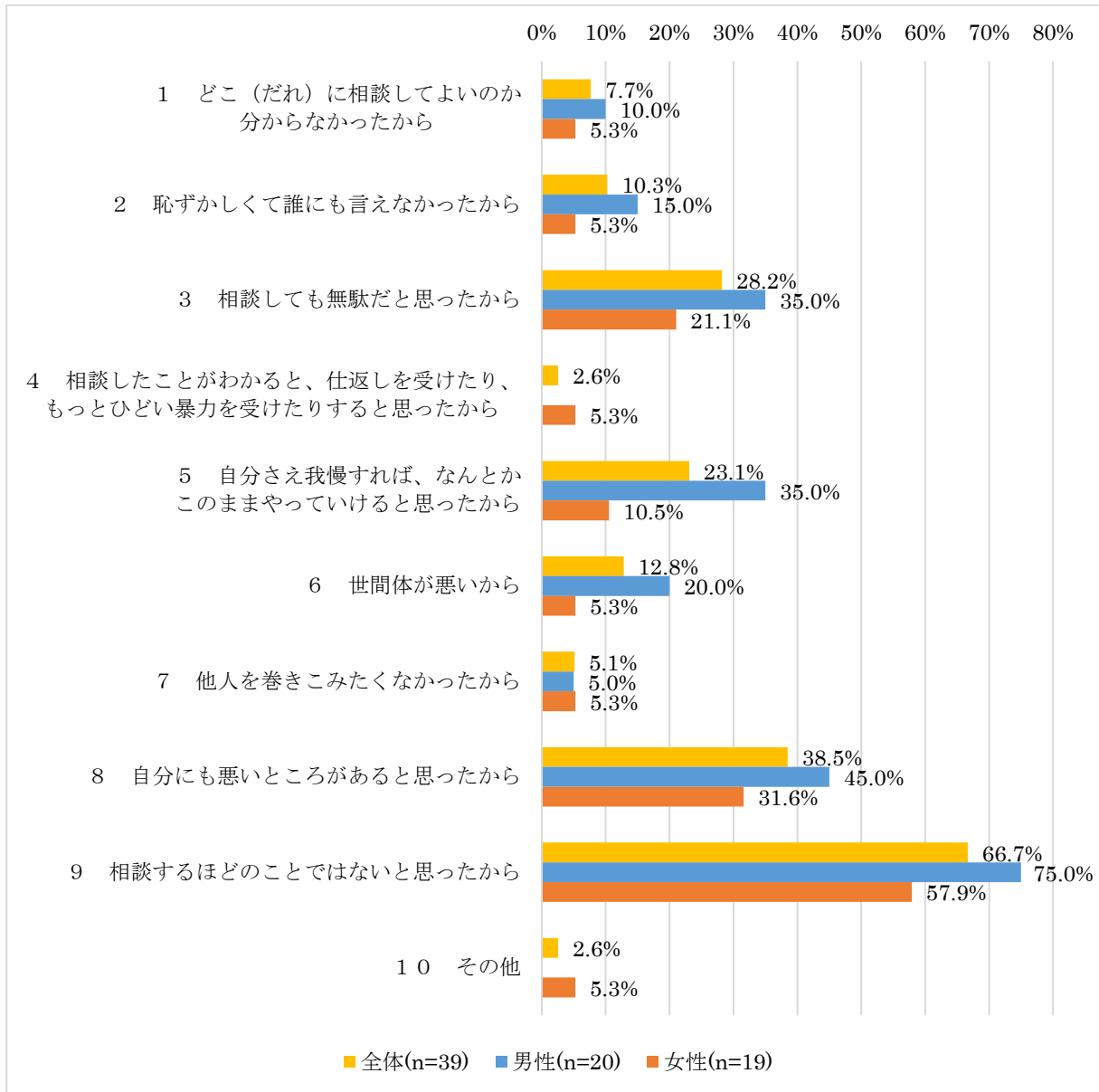
5年間に配偶者や交際相手などからの暴力の有無について、「1 何度もあった」または「2 1、2度あった」の割合が最も高かったのは、「イ 心理的攻撃（精神的な暴力）」で、全体で20.2%、男性17.4%、女性22.7%であった。

問13-2 13-1のいずれかの項目で「1」または「2」と答えた方にお伺いします。これまでに暴力について誰かに打ち明けたり、相談したりしたことはありますか。次の中からいくつでもあげてください。



問13-1のいずれかの項目で「1 何度もあった」又は「2 1、2度あった」と回答された配偶者等からの暴力等の被害の相談について聞いたところ、最も多かった割合は「10 どこ（だれ）にも相談しなかった」で全体50.6%（男性74.1%、女性38.0%）であった。次いで「2 家族や親戚に相談した」が全体27.3%（男性11.1%、女性36.0%）、「1 友人・知人に相談した」が全体22.1%（男性11.1%、女性28.0%）であった。

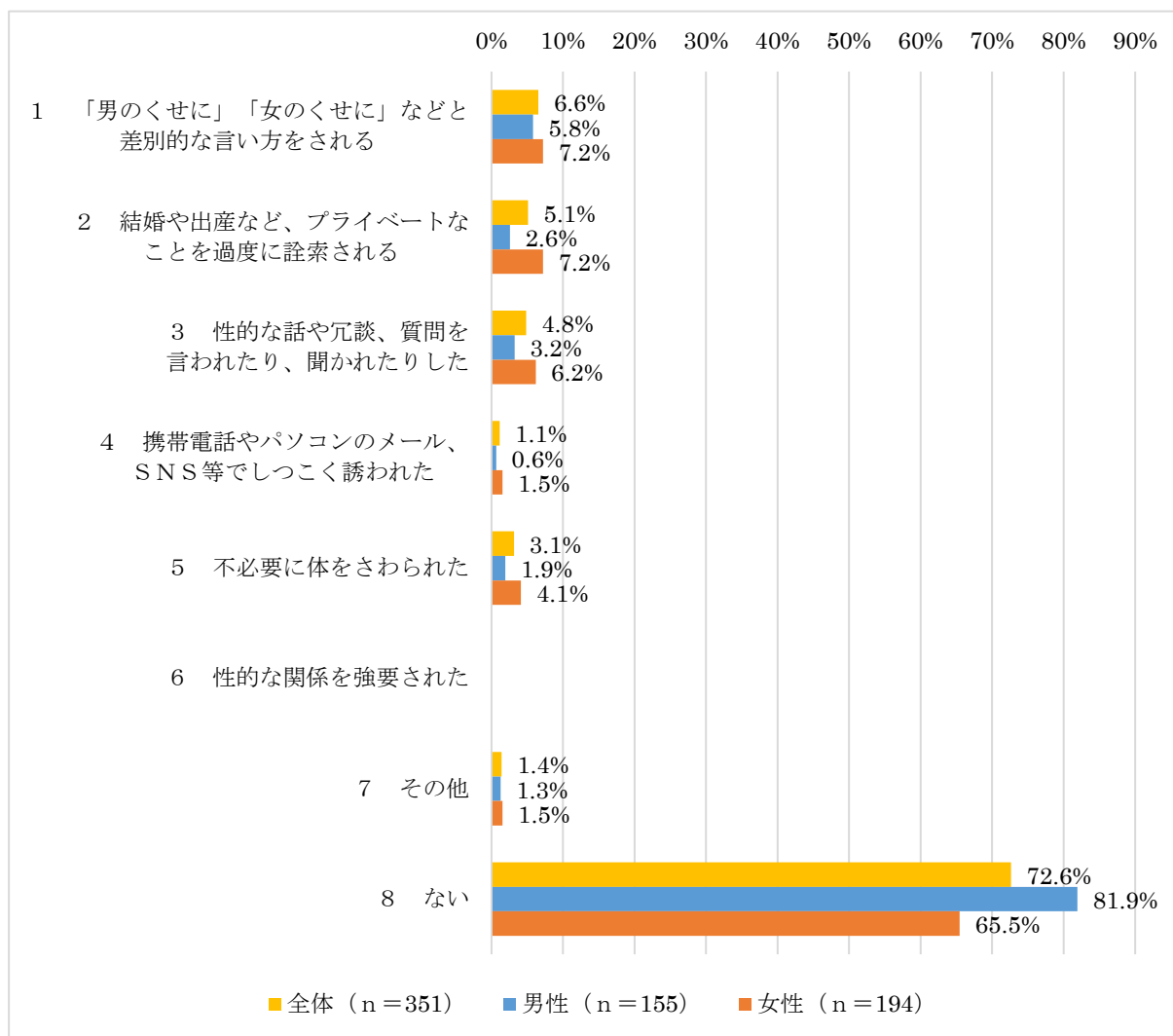
問13-3 問13-2で「10 どこ（だれ）にも相談しなかった」方にお伺いします。どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。次の中からいくつかあげてください。



問13-1で「10 どこ（だれ）にも相談しなかった」方に、その理由を聞いたところ、割合が高かったのは「9 相談するほどのことではないと思ったから」が全体 66.7%（男性 75.0%、女性 57.9%）で、次いで「8 自分にも悪いところがあると思ったから」が全体 38.5%（男性 45.0%、女性 31.6%）、「3 相談しても無駄だと思ったから」が全体 28.2%（男性 35.0%、女性 21.1%）であった。

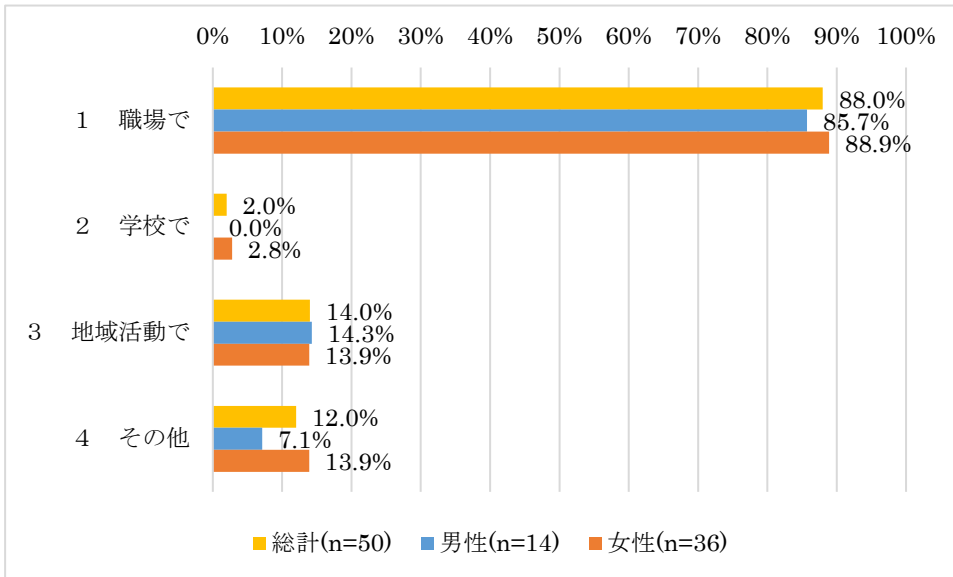
(2) セクシュアル・ハラスメントの有無

問14-1 過去1年以内に、あなたの身近なところ（職場・学校・地域活動など）でセクシュアル・ハラスメント（相手の意に反する性的な言動）を経験したり、見聞きしたりしたことはありますか。次の中からいくつでもあげてください。



過去1年以内に身近なところでセクシュアル・ハラスメントを経験したり、見聞きしたりしたことがあるかについては、「ない」が、全体 72.6%、男性 81.9%、女性 65.5%と過半数を超えている。セクシュアル・ハラスメントの内容は「1 「男のくせに」「女のくせに」などと差別的な言い方をされる」と答えた人は全体 6.6%（男性 5.8%、女性 7.2%）で最も多く、次いで「2 結婚や出産など、プライベートなことを過度に詮索される」が全体 5.1%（男性 2.6%、女性 7.2%）、「3 性的な話や冗談、質問を言われたり、聞かれたりした」が全体 4.8%（男性 3.2%、女性 6.2%）であった。

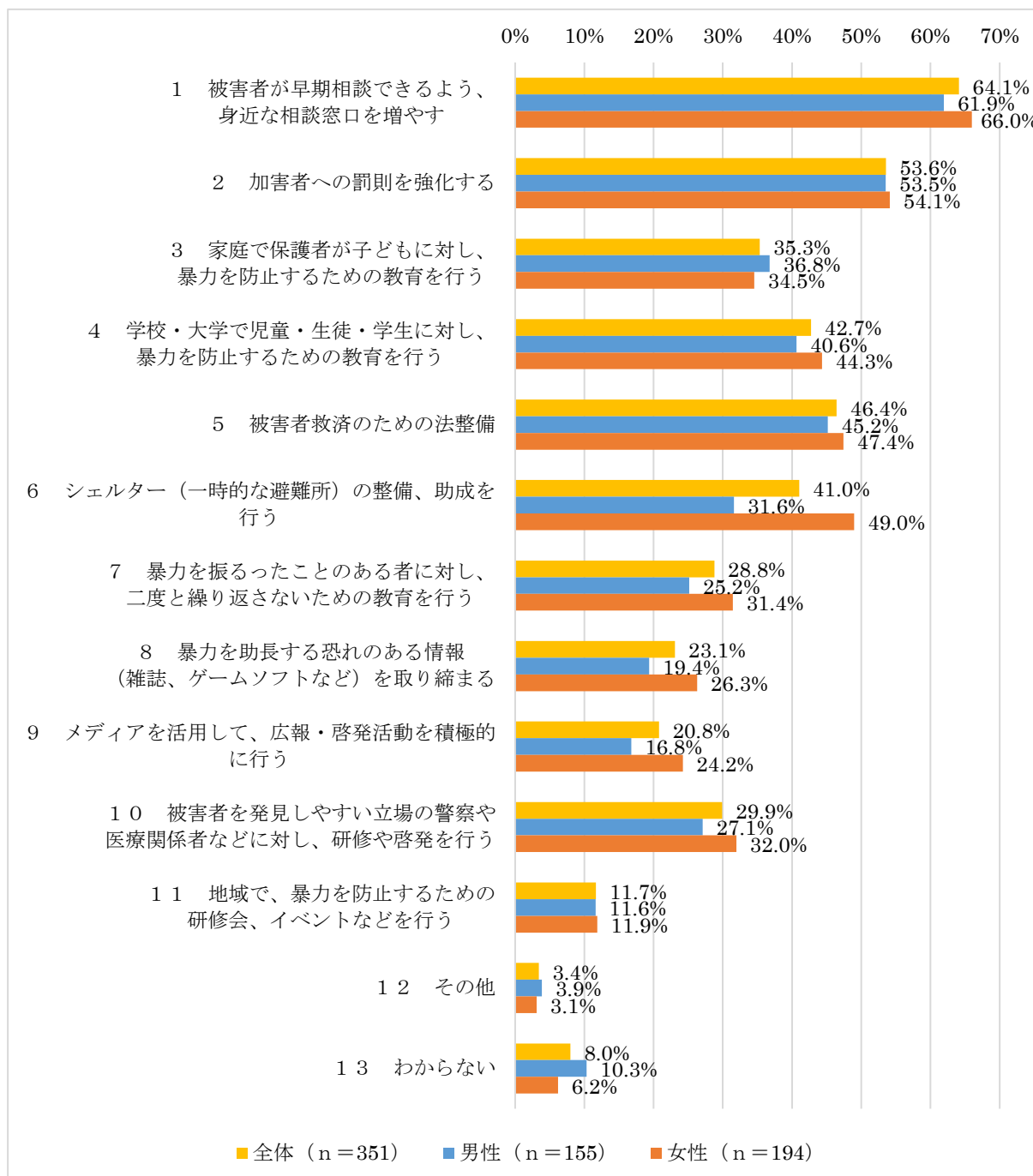
問14-2 問14-1で「1」～「7」に○をされた方に伺います。そのセクシュアル・ハラスメントはどこで行われましたか。次の中からいくつでもあげてください。



こういった場面でセクシュアル・ハラスメントがあったかについては、「1 職場で」が全体 88.0%（男性 85.7%、女性 88.9%）と1番割合が高く、次いで「3 地域活動で」が全体 14.0%（男性 14.3%、女性 13.9%）であった。

(3) 配偶者等からの暴力、セクシュアル・ハラスメント防止に必要なこと

問15 配偶者や交際相手などからの暴力、性暴力、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどを防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか。次の中からいくつでもあげてください。



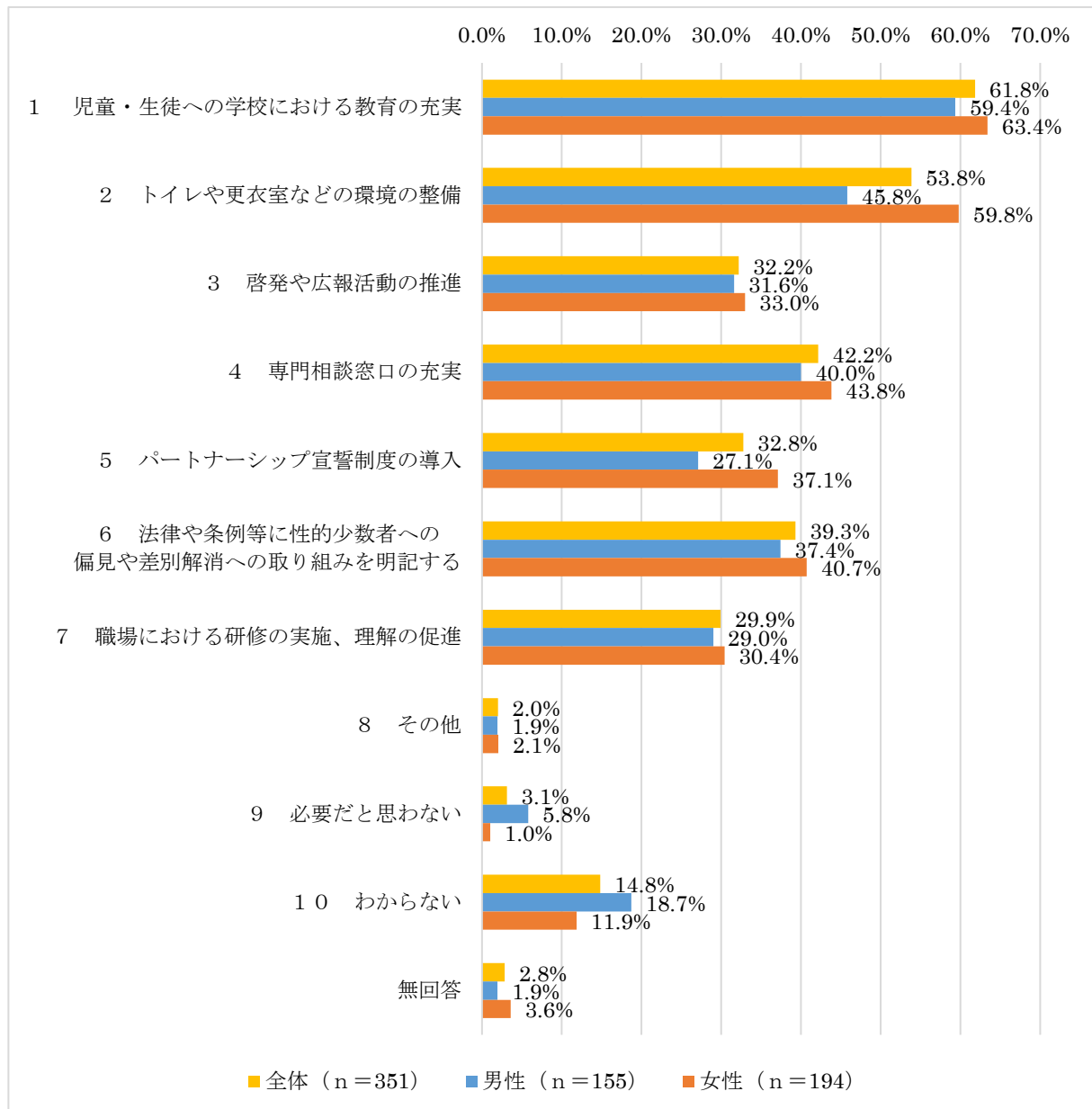
暴力、性暴力、セクシュアル・ハラスメントなどを防止するために必要な対策については、「1 被害者が早期相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が全体64.1%（男性61.9%、女性66.0%）と最も割合が多く、次いで「2 加害者への罰則を強化する」が全体53.6%（男性53.5%、女性54.1%）であった。その次に多かったのは、全体と男性でみると「5 被害者救済のための法整備」で全体46.4%（男性45.2%、女性47.4%）だが、女性において3番目に割合が多かったのは「6 シェ

ルター（一時的な避難所）の整備、助成を行う」であった。

5 性の多様性について

(1) LGBT等の性的少数者に対する理解の促進や支援に必要なこと

問16 あなたは、LGBT等の性的少数者に対する理解の促進や支援にはどのようなものが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをいくつかあげてください。

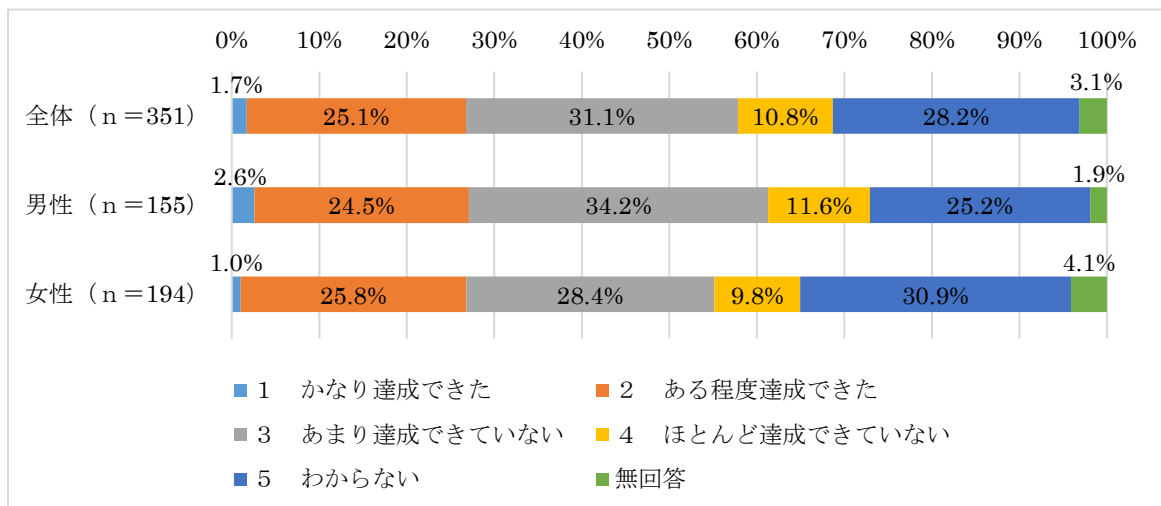


性的少数者への理解促進や支援として必要な施策について、「1 児童・生徒への学校における教育の充実」が全体で61.8%（男性59.4%、女性63.4%）と最も割合が高く、次いで「2 トイレや更衣室などの環境の整備」が全体53.8%（男性45.8%、女性59.8%）、「4 専門相談窓口の充実」が全体42.2%（男性40.0%、女性43.8%）の順に高かった。

6 男女共同参画社会に関する行政への要望について

(1) 男女共同参画社会の達成度

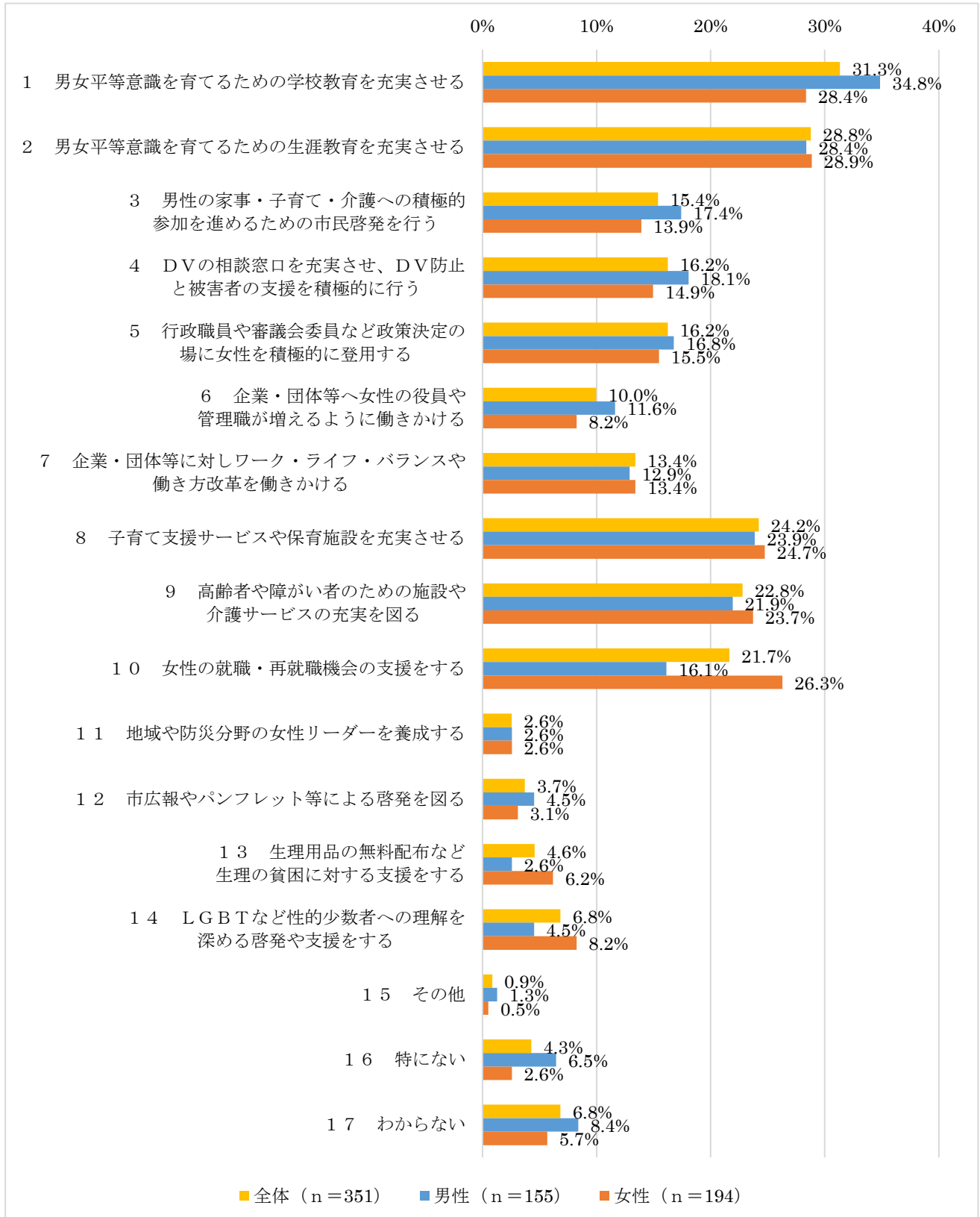
問17 あなたは、あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、現在、男女共同参画社会は達成できたと思いますか。次の中から1つだけお答えください。



男女共同参画社会の達成度は、全体で見ると「3 あまり達成できていない」の割合が31.1%と最も高かった。「1 かなり達成できた」及び「2 ある程度達成できた」の割合が26.8%、「3 あまり達成できていない」及び「4 ほとんど達成できていない」の割合が41.9%と、『達成できた』より『達成できていない』の割合の方が多かった。

(2) 男女共同参画社会実現のために山陽小野田市が推進すべきこと

問18 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、山陽小野田市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からいくつでもあげてください。



「男女共同参画社会」を実現するために、山陽小野田市が力を入れていくべき施策として最も多かった回答は、「1 男女平等意識を育てるための学校教育を充実させる」が全体で 31.3%（男性 34.8%、女性 28.4%）、次いで「2 男女平等意識を育てるための生涯教育を充実させる」が全体 28.8%（男性 28.4%、女性 28.9%）、「8 子育て支援サービスや保育施設を充実させる」が全体 24.2%（男性 23.9%、女性 24.7%）」であった。

（3）自由意見

問19 男女共同参画社会の実現のために、ご意見・ご要望がありましたら、回答票にご自由にお書きください。

- ・女性の育休制度の充実(休職中の給料保障)
- ・男女雇用機会均等法 1985(昭和 60 年)から早 36 年。男女共同参画社会 1999 から 2022 年意識改革は、なかなか進まないものですが少しずつではありますが平等になって来ているような気はします。団塊世代が引退するから。
- ・障害者の偏見をなくして、支援してほしいです。
- ・核家族があたり前となった現在、男女が共同参画を気軽に出来る様な公共が提供するマッチングサービスを望む。特に元気な高齢者が参画する環境作り、地区の回覧板、地区の情報誌、広報を更に活用する。
- ・私は企業の中で度々このような共同参画に関らず教育を受けています。問 17 で 3 と回答しましたが企業内では 1～2 を達成できており男女問わず女性ジェンダー、外国人が平等な働き方をしています。社会が日々変化する中で、何が必要で、何を求めているのか、では女性のジェンダーの真意は何なのか?男性の真意は何なのか?昔ながらの考えが根深く残る社会である以上、個人個人が意識をもって取り組まない限り行政が行動しても何も変化しないと考えます。難しい問題課題かと思いますが、意識を持たせる策が必要です。
- ・男女共同参画は大企業と公務員だけで、中小企業は話にも加われない。アンケートを参考にして、女性が働きやすい環境作りとか本当にする気があるのですか?やっていますアピールで終わらないようにお願いします。
- ・もう年を取って、考えにくい質問が多く答えにくいものもあり協力しにくいものも、数ありましたごめんなさい。
- ・子どもたちが幸せに生きていける社会を願います。
- ・子どもに理系の学校、進学をして欲しいと思いますが、大学などの研究機関では、女性への差別がひどいと聞きます。年長者への男女平等などの教育を積極的に呼びかけていただきたいと思えます。
- ・各自が男女の平等意識を認識する事。
- ・このような、アンケートを行っても、各人の状況によって意見が分かれるのはあたりまえで意味がないと考える。今後、日本の社会が、どうなっていかなければならないかは、みんなが分かっ

いること!(専門家もおられるでしょう)このアンケートにかかわる金額を、今すぐ、問 18 の実現に使ってほしい!

- ・ LGBT の啓発に前のめりになる必要はないと思う。
- ・ 年寄りにアンケート調査を求めても、質問に答えられない。ランダムに選考されても困る。
- ・ 教育のおかげだと思います。子どもや孫達の生活を見てそう思います。世代によって意識の違いがあると思います。自分を納得してもらい、相手を理解することにつきる、その上で男女のあり方を見つめ直す。誠実であることでしょうか。コロナが早く終るといいですね。
- ・ 昇進・昇格の機会が女性は差別されている。いまだに男尊女卑の風潮が根強い。
- ・ 自身へのアンケート調査は、よくあるが、妻への調査は少ない。これは、平等ではない。アンケート回答も、時間を要します。HP など全員参画を目指し、協力者には、抽選でも良いので、何か贈答品を送っては、いかがでしょうか、参加者 UP。
- ・ 現在市では、男女共同参画社会の実現についてどの様に評価されているか市報等でお知らせ願いたいと思います。
- ・ どうしても男性女性と別々に考えられがちです。女性だからということで、諦めたり、我慢することが多く感じます。
- ・ 個人的な意見ですが地域などで力を入れても、関心のある人しか知らない情報になってしまうと思います。そのため、力を入れてお金をかけるなら教育の現場で道徳などの時間に入れるなど、必須科目にすべきだと思う。
- ・ 議員数を男女半々にする。
- ・ 女性が、もっと活躍できるような環境整備(職場、学校施設等)を行い、男女差をなくすことで、人間としての考え方や行動をお互いに理解することが共同参画を実現すべきことだと思います。「男だから」とか「女だから」は、世の中で通用しません。
- ・ 男女で生活する時間の配分が、同じようになるといいと思う。現実には、女性の方が、家事、子育て、介護などに時間をかけるため、自分が何かをする自分のための時間を持ち、地域社会に関わっていくことを考えるゆとりもないのでは。参画となると動くのに力がいらいます。誰もが気軽に、意見やアイデアが言える窓口があるといい。
- ・ 私は昭和人間で考えが古いと思いますが、これからの時代男女協力してまずは子供の教育、両親の介護、大小の施設があちこち出来ていますが入所させたら終りではなく、時には夫婦子供連れで訪問する、老人をいたわる心を養わせることがひいては男女共同参画の社会につながるのではないのでしょうか。話が脱線していたらすみません。
- ・ 男女平等と言えど男性にしか出来ない、女性にしか出来ない事が少なからずあると思います。権利を主張するだけでなく、男女お互いに理解と尊重が前提にあるべきではないかと思います。性の多様性について、若い世代の方が受け入れている様に感じます。
- ・ 国会議員は、給料をとりすぎ。コロナの時でも何もしていない。交通費とやら、何で 100 万もいるのか自分達の得することはすぐ決定する。困っている人が多くいることをもっと知るべきです。市議会議員、県議会議員も一緒です。
- ・ 男女平等はむずかしいと思う。男がやること、女がやること(家事など)決まっていて、それが当たり前で、子供の世話は母親が主で、夫はお金を稼ぐ、この意識を変えていくなんて、不可能。

・市民の何割の方が男女共同参画の事業等存在を知っていますか?まずそこからではないでしょうか?

・男女平等を意識するあまりに女性にばかり意識がいつてはいけないと思う。子どもや、老人が安心して暮せる様に制度や補助を拡充すべき。その為に市としての投資が必要。保守的な市政運営では立ち遅れる。駅前を中心に開発すべきだと思います。

・各自治会において男女共同参画社会の実現についての講習会等を開催し理解を求めていく。

・不妊治療代が高くて悩んでいます。

・男女共同参画社会の実現は、マスコミに良いにしろ悪いにしろ誘導されている(影響を受けている)面が多いと感じています。戦後変な平等主義がはやった事がありますが、そうならないよう現実社会が少しでも良い状態になってくれればと願っています。本アンケートによってよりよい施策がなされ具体的成果について事案がPRされるよう望んでいます。

・女性が出産のブランクがあっても働きやすい、働ける所を拡充する。小、中、高と、結婚、出産、育児(成人するまで)の費用や分担の大切さなどの教育。女性の意見しか反映されていないというくらい、女性の声を実現していく。住み良い街作り(道路、スーパーなどのアクセス)の推進。若い人の声を取り入れて反映していく。

・教育、意識付けは、最も重要と考える。しかし今回は主に具体的施策に対し、答えさせて頂いた。教育には時間もかかると思われ、具体的な行動と両輪で頑張ってもらいたい。(長期展望と短期施策を明確に)

・行政による目に見える共同参画を企画、実施する。

・有識者などで机上で様々な検討や議論をされていると思うが、まずは、スピード感を持って、有効性が少しでも期待できそうな施策が見つければ、実行してみる。その後効果の確認や見直しを行うなどPDCAを行う事で、より良い環境の醸成に繋げて行けば少しずつ目指すべき社会の実現に近づくのではないかな。

・男女別枠区分を廃止し、採用試験合格点数、保有資格等による選別を行い、各個人間の競争社会とすればどうですか。しかし、別の問題が生じそう?

・今後は、山陽小野田市が良くなるように、市や行政の方々が、協力をしてDVや、色々な犯罪に巻き込まれないように、小野田警察署の方や小野田市役所が生活困窮者を、積極的に助け、困っている方がおられれば、相談窓口を設置し、いつでも相談が出来るようにして頂ければ私としては山陽小野田市が今よりももっと良くなっていくのかなと思えてなりません。

・お互いを理解し、思いやる気持ちが大切だと思います。

・昔に比べかなり改善されているが、職業としてまだまだ、正社員が少なく、パート、アルバイトが多い。(パート・アルバイトで満足する女性もいて、雇用条件が整っていない部分がある)

・今後、給付金を配布する時は全て現金一括にしてほしいです。

・私もですが、昭和世代は男だから女だからの固定概念が根強いと思います。それは、男が生活の為に働き、女が家庭を支えるという家庭環境で育ってきたからだと思います。男女平等と言っても深層心理にはその概念が残っていると感じます。まずはひとりひとりの考え方を今の時代に合わせていく事、そして、これからの若い世代の意見や考えを取り入れていく事が大切だと考えます。

・人である以上男女共平等であるが、同等ではないので差は生じる。男>女、男<女、どこまでの

関係を求めるか難しいですね。

- ・男女の特性は存在する。3才までは家で育てる事が重要と考える。家では基本的なしつけを、学校は教育の場と考えています。復職の為の研修、育休を産後3年間と延長しその間の経済的支援を手厚くする事が重要と考える。

- ・女性も男性と同じように責任ある仕事をしているのなら管理職でなく、平社員でももう少し給料を上げるべき。専門職でない限りは、女性の場合どの職業でも基本給の手取りが20万もないので。給与を上げることで少子化対策にもつながると思うし、生活の基盤をしっかりとすることで豊かな生活、暮らし、社会へと繋がると思います。子供手当の額も月1人2万くらいにUPして欲しいです。もしくは、第二子は、今の倍になるなど。

- ・男女共同参画は、数十年前・数年前と時を過ぎるほど、前に進んでいると思います。やはり、教育が大切で、幼少頃から、しっかりとした考えを持つようになれば、この先も時と共に充実が期待できると思います。しかし、政治がいつも試算するのは、専業主婦を優遇の上での施策(税や年金は特に)が多く個人として見ていないと思われます。日本の良い所を延ばした上での老若男女 LGBT の人が「差別」という言葉さえもない社会を望みます。「女と男の一行詩」は素敵な企画です。(応募はしていませんが)全国区になるといいですね。

- ・中には他が気になる方がおられる様ですが健康が一番です。

- ・命あるもの、次世代を残すことも重要なことの一つではないでしょうか。今のことにこだわりすぎて、この重要なことをないがしろにし、絶滅危惧種にならぬよう。子供を大切に、増やすよう。

- ・あまり良く理解出来ずすみません。いろいろ参考になる集会とかあっても、交通の便が悪くて参加をひかえる事が多い。(交通の便をもっと良くして欲しい。)

- ・アンケートを集計させるだけでなく、実行してほしい。

- ・家庭においては、女性の負担の割合が多い現状があると思います。その中で、食事の準備や片付けを朝・昼・晩3食行くと、残りの時間が少なくなるし、もし、それをしなければ、空腹でまともな思考も出来ない子や大人も増え環境も悪くなる。市に飲食店街などがあれば、仕事後、クラブ後等すぐ食べて帰れて、家庭での家族の時間が増え充実すると思う。

- ・弱者救済を市として積極的に進めて下さい。

- ・市民皆が協力し、住み良い町作りの実現。本当に困っている方に届く福祉の提供。若者を呼び込める(定住)魅力的な街

- ・何がセクハラか分かるように法制度を整える。

- ・男性が家事育児に対する当事者意識がまだまだ低いように感じます。

- ・『家事育児は女がやるもの』という古い考え方は改めなければなりません。

- ・頭の固いおじさんに言ったところで改善しないと思います。

- ・20代から40代の子育て世代男性に家事育児の当事者意識を呼びかけ、子供達に『家事育児をするパパ』を見せ、次世代に繋げる事が大事だと思います。

- ・20代から40代の家事育児をしない男性は、家事育児をしない父親を見て『男は家事育児をしない』というプライドを持っています。

- ・『家事育児をしない男性はカッコ悪いよね』という風潮作りから始めないと変わらないと思います。

- ・男性の育児休暇義務化もお願いします。”

- ・名前から男女で分けずに共同参画社会にするべき。
- ・出産時の休暇を取りやすくするために会社の人員削減をある程度食い止める必要がある。
- ・LGBTQについて認知してもらう必要がある。”
- ・そもそも何故男女が平等でなければいけないのか？体の作り、体力、生き立ち、持っている知識、能力など男女問わず異なる。求めるものは平等ではなく、公平性ではないのか？
- ・一律男女平等の考えだと「何故あの人か？」といった能力と異なる評価が起こりうる。女性の管理職推進なんてまさにそれ。
- ・男性社会の会社で数少ない女性を管理職に推進する事は、女性の方がチャンスの確率が高くなり納得出来ないし、それを推進する考えも理解できない。
- ・きちんと能力が在れば評価される。
- ・スタートラインは平等で結構だが、評価は公平に行われるべきだと思う。
- ・人を区別する色眼鏡がなくなり、条件なく機会が平等であるよう願います。
- ・職場で、子供や親の急な用事で仕事を休まないといけない事態になった場合の対処方法の充実が必要であると思います。
- ・性別関係なく、好きな人と一緒にいられる事が当たり前、みんなが幸せに暮らせるそんな社会になるといいなと思います。
- ・男女平等に機会や権利は与えるべきですが、性差による能力の差があるので、そもそも平等を実現することは不可能です。むしろ平等ばかりにこだわらず、強みを活かすというのも大事だと思っています。それこそが与えられた性への尊重にもなります。
- ・LGBTについては、そういう人がいるという教育を学校でしておき、不自然な存在ではないと知ってもらうのが大事だと思っています。
- ・いじめやDVに関して、日本は被害者の方が立場が弱くなる傾向にある。それはおかしいことだと常々思う。加害者の心理状況が悪化していることによって被害者が生まれるのであれば、心理状況が悪化する原因を先につぶしていけばいいと思う。また、いじめ・DV 両方とも「加害者」の隔離が手っ取り早いと思う。メンタルケアが必要なのは被害者もだけど、もう一度繰り返す可能性がある「加害者」の方が深刻だと思う。また、男性が家事に『参加する』っていう響きが無くならないのが不思議に思う。なぜ女性が子供を育てる「義務」を背負って、男性は背負わないのか。お互いに子供を育てる「権利」があるのになと思う。それを昔からの意識の刷り込みが邪魔していると常々思う。上手に表現できないけど、昔はこうだったとか言われても、時代はうつり変わってきているので、見直すべきことは毎年議論すべきだと思う。”

山陽小野田市
男女共同参画に関する市民アンケート調査
報告書

問い合わせ 市民部市民活動推進課
人権・男女共同参画室
TEL：0836-82-1137
